

[年頭所感]

愛知県知事 神田 真秋

名古屋市長 河村 たかし

(社)愛知県産業廃棄物協会会長 近藤 成章

平成22年 年賀状

名古屋支部、尾張西支部、尾張北支部、尾張南支部

西三河支部、東三河支部、青年部会

(社)愛産協役員一同

県・市行政と愛産協との懇談会

産業廃棄物処理業優良化セミナー

環境リスクコミュニケーションセミナー

施設見学会報告



社団法人

愛知県産業廃棄物協会

<http://www.aisankyou.com> E-mail:[info@aisankyou.com](mailto:info@aisankyou.com)



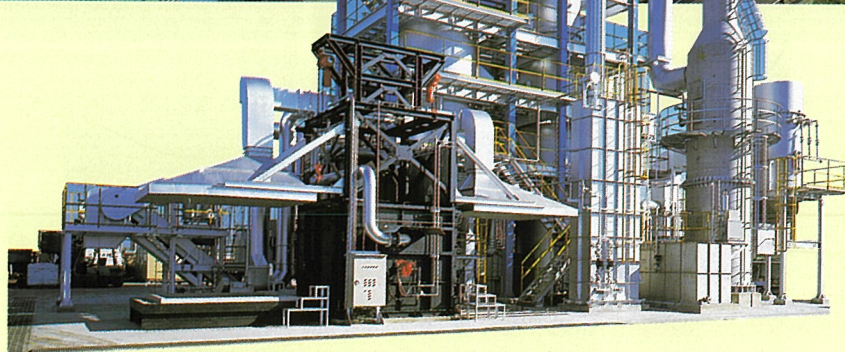
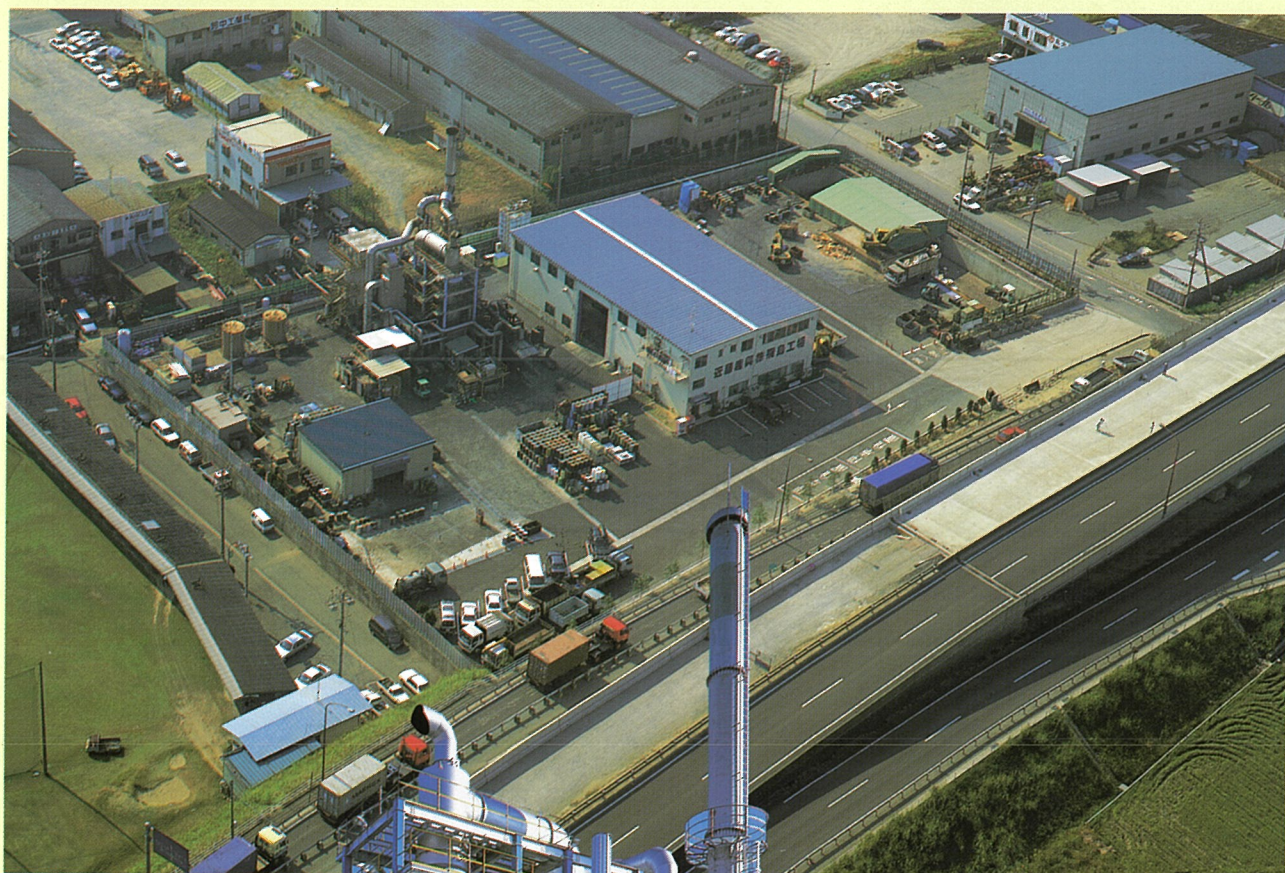
# 4つの焼却システムで多種類の廃棄物を完全燃焼 環境管理も最新設備で万全

●ロータリーキルン炉による焼却

●バーナー噴霧による焼却

●台車炉による焼却

●揺動式ストーカー炉による焼却



近藤産興の  
産業廃棄物焼却プラント  
飛島工場

## 近藤産興株式会社

〒457-8535 名古屋市南区浜田町1-10  
TEL.052-614-2511 FAX.052-611-5826

## 飛島工場

〒490-1435 愛知県海部郡飛島村大字梅之郷字東梅15  
TEL.05675-5-2847 FAX.05675-5-0506

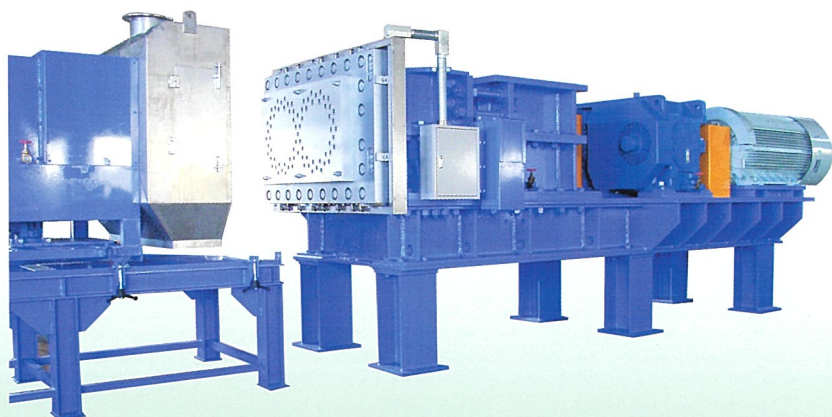


# キレイな環境づくりに多大に貢献する タジリの総合再資源化技術

熱圧縮減容成形機

## ウエストポーター

プラスチック及び紙屑、木屑等を圧縮し、ソーセージ状(φ25mm~φ150mm)のRPF(固形燃料)にすることが出来ます。



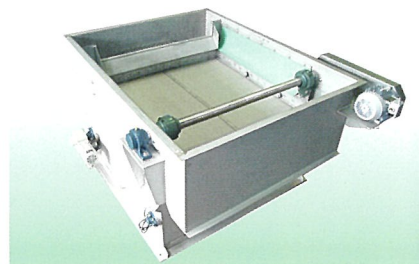
(タイプ：12種類) ニーズに合わせてご利用下さい。

- スクリューは六角形スクリュー軸に差込方式且つ分割式の為、メンテナンスが簡単です。
- センサー管理の安全タイプ。
- ノズルを用途に応じてセットし、ダスト燃料が調整できます。

水処理システムユニット

## TSS型 振動スクリーン

環境への配慮から、廃水・廃液中の混入物を分離除去する装置です。



パドル式洗浄脱水機

## スピンドライヤー

廃プラスチックを水で洗浄し、遠心力を利用して脱水する装置。

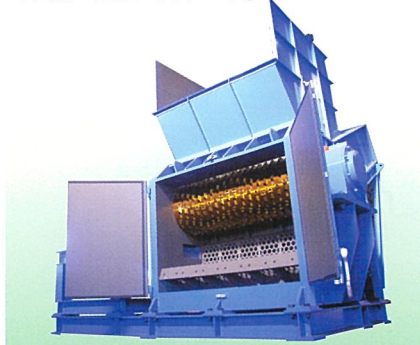
含水率35%前後の廃プラを5%程度までに高性能脱水。連続的に脱水を行うため、短時間でスピーディーな処理が可能。処理能力500~2000kg/hまでラインナップ。



一軸式破碎機

## バイトローター

プラスチック・ゴム等軟らかいものから、木材・巻取ロール・雑誌等の堅い物まで効率良く破碎します。又、スクリーンの交換で粒度の選定が出来ます。



一軸式横型破碎機

## ローターリーハンマー

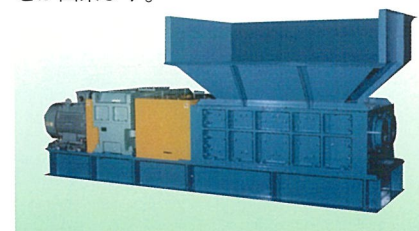
衝撃型破碎方式のため、廃家電製品・木材外壁等の硬質系廃棄物を瞬時破碎処理出来ます。



粗大ゴミ・不燃物の二軸強力破碎機

## ストロングクラッシャー

粗大ゴミ、不燃物などをせん断、圧縮、引張作用により破碎処理します。又、破碎物の大きさは、破碎刃の形状により変えることが出来ます。



### その他営業品目

- ホッピングスクリーン：残渣選別機
- プレスコンパクター：空缶圧縮機
- ウルトラクラッシャー：油圧式破碎機

地方自治体及び産業廃棄物関連施設の不燃ごみ・粗大ごみリサイクルプラント、RPF製造プラント、ビン・缶リサイクルプラント



製造・発売元

ISO9001 認証取得

株式会社

タジリ

〒369-1108 埼玉県深谷市田中357-1

TEL.048-583-3525 FAX.048-583-3527

URL <http://www.tajiri.co.jp> E-mail [info@tajiri.co.jp](mailto:info@tajiri.co.jp)





MEIKI  
CLEANER

# わたしたちにできること。

お客様のために。その先にいるお客様のために。「私たちの成長が、未来をもっと良いものにする。」

その想いを胸に、リサイクルへの架け橋として 日々成長し続けています。



環境の未来をいっばんに考え、  
あらゆる分野の廃棄物の処理システムをご用意しています。



焼却



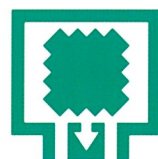
油水分離  
脱水・中和



圧縮梱包



選別



減容固化



破碎

一般・産業廃棄物処理許可業者

株式  
会社

明輝クリーナー

URL <http://www.meiki-c.com/>  
MAIL [meiki@lilac.ocn.ne.jp](mailto:meiki@lilac.ocn.ne.jp)



本社

〒441-8123 愛知県豊橋市若松町字中山101-34  
TEL.0532-25-1026(代) FAX.0532-25-1227

原町工場

〒441-3111 愛知県豊橋市原町字南山1-99  
TEL.0532-41-7530 FAX.0532-43-0165  
ヨイナゴミゼロ



循環型社会  
推進企業をめざす

**ASS**  
AMA SEISOU

廃棄物を明日に残さない  
環境保全の約束です。

明日を  
ベストゼロエミッション。



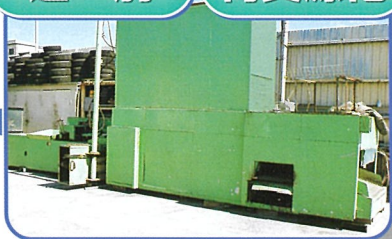
## 《14年対応最新設備の燃焼施設完成》

収集運搬



選別

再資源化



焼却



株式会社  
**海部清掃**

■本社／愛知県海部郡甚目寺町大字西今宿字平割二6番地  
TEL.052-441-5353 FAX.052-441-5427

■美和営業所／愛知県海部郡美和町大字ニツ寺字上長2番1  
TEL.052-442-8493 FAX.052-442-8508

業  
務  
内  
容

産業廃棄物許可

収集運搬

愛知県・名古屋市・豊田市・  
豊橋市・岡崎市・岐阜県・  
三重県・長野市・長野県

処 分

愛知県  
・中間処分／圧縮・選別、焼却、  
選別、破碎・選別

特別管理産業廃棄物許可

収集運搬

愛知県・名古屋市・豊田市・  
豊橋市・岡崎市・岐阜県・  
長野市・長野県

処 分

愛知県  
・中間処分／焼却

一般廃棄物許可

愛西市・一宮市・稲沢市・大治町・  
春日井市・蟹江町・北名古屋市・  
清須市・七宝町・甚目寺町・津島市・  
美和町・弥富市



# 人と自然のために...

「限られた資源を活かして使う」をテーマに  
ダイセキグループは最新設備と高い技術力で  
[資源循環型社会の構築]に貢献してまいります。

## 廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥の処理および資源リサイクル



[名古屋事業所リサイクルセンター]



株式会社 **ダイセキ**

ホームページ <http://www.daiseiki.co.jp>

〒455-8505 名古屋市港区船見町1-86  
TEL (052) 611-6321 FAX (052) 611-0160

### <事業所ネットワーク>

|        |                  |                    |
|--------|------------------|--------------------|
| 名古屋事業所 | 名古屋市港区船見町1-86    | TEL (052) 611-6321 |
| 北陸事業所  | 石川県白山市相川新町631-1  | TEL (076) 275-6585 |
| 関西事業所  | 兵庫県明石市二見町南二見21-6 | TEL (078) 949-1180 |
| 九州事業所  | 北九州市若松区南二島4-13-3 | TEL (093) 701-2016 |
| 関東事業所  | 栃木県佐野市西浦町570-1   | TEL (0283) 24-8006 |
| 千葉事業所  | 千葉県袖ヶ浦市南袖23-8    | TEL (0438) 62-8798 |

## 土壌汚染の調査・浄化・無害化の一貫処理および資源リサイクル



[名古屋リサイクルセンター]

### 株式会社 ダイセキ環境ソリューション

〒455-0027 名古屋市港区船見町1-86  
TEL (052) 611-6350 FAX (052) 611-4022  
<http://www.daiseiki-eco.co.jp>

## 廃石膏ボードの資源リサイクル



[グリーンアローズ中部]

### 株式会社 グリーンアローズ中部

〒455-0027 愛知県東海市ホノ割213-7  
TEL (052) 689-3501 FAX (052) 604-1558  
<http://www.daiseiki-eco.co.jp/gac>



|               |                                                    |   |
|---------------|----------------------------------------------------|---|
| 年頭所感          | 愛知県知事 神田 真 秋                                       | 2 |
|               | 名古屋市長 河 村 たかし                                      | 3 |
|               | (社)愛知県産業廃棄物協会会長 近 藤 成 章                            | 4 |
| 平成22年 年賀状     | 名古屋支部・尾張西支部・尾張北支部・尾張南支部<br>西三河支部・東三河支部・青年部会・協会役員一同 | 5 |
| 平成22年 新年交礼会開催 |                                                    | 9 |

## 行政ニュース

|                                        |               |    |
|----------------------------------------|---------------|----|
| 土壌汚染対策法が改正されました                        | 愛知県環境部水地盤環境課  | 12 |
| 愛知で、新たな循環ビジネス。循環ビジネス創出会議に参加しませんか。      | 愛知県環境部資源循環推進課 | 14 |
| 「石綿(アスベスト)による健康被害の救済に関する法律」が一部改正されました。 | 環境再生保全機構      | 17 |

## 協会ニュース

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 平成21年度 県・市と愛産協との行政懇談会               | 19 |
| 産業廃棄物処理業優良化セミナー開催                   | 22 |
| (社)愛産協主催「環境リスクコミュニケーションセミナー」開催      | 24 |
| 近藤成章会長が環境功労者表彰を受賞                   | 25 |
| 東三河支部が愛知県知事感謝状を受賞                   | 26 |
| 安全標語優秀作品6点を決定                       | 27 |
| 「新入社員安全衛生教育・研修」開催                   | 28 |
| 「第8回 産業廃棄物と環境を考える全国大会」が開催されました      | 29 |
| びわ湖環境ビジネスメッセ、大阪府エコタウンの2つの施設を見学      | 30 |
| 親睦ゴルフ大会・ボウリング大会が開催されました             | 32 |
| 食品リサイクル講習会報告                        | 34 |
| 企業とNPOの環境活動セミナー                     | 35 |
| バーゼル法等説明会報告                         | 35 |
| 平成21年度 安全なまちづくり愛知県民大会               | 36 |
| 平成21年度 ごみゼロ社会推進あいち県民大会              | 36 |
| 森林資源を工業に生かす新産業創出のための交流会議報告          | 37 |
| 夏休み「親子で環境・資源リサイクル体験ツアー」に参加された方の作品紹介 | 37 |
| あいち地球温暖化防止戦略 あいち新世紀自動車環境戦略推進大会報告    | 38 |

## 支部ニュース

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 名古屋支部・尾張西支部・尾張北支部・西三河支部・東三河支部 | 40 |
|-------------------------------|----|

## 青年部会ニュース

|                                                         |    |
|---------------------------------------------------------|----|
| 11月全体会議 「やんちゃ和尚のスキルアップセミナー」                             | 44 |
| CO <sub>2</sub> マイナスプロジェクト推進 電動バイクキャラバン隊、栄のセントラルパークを走る! | 46 |

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 地球環境問題 [シリーズ] 第10回 廃棄物の経済学 | 47 |
|----------------------------|----|

## 循環型最前線レポート

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| グリーンポイントシステム導入で自動車リサイクル部品の新たな需要を喚起 / (株)吉田商会 | 50 |
|----------------------------------------------|----|

## 事務局だより

|         |    |
|---------|----|
| 理事会報告   | 55 |
| 入会・退会状況 | 56 |

## 趣味倶楽部

まず私自身が楽しませてもらい、その先に森の出前や押し花教室、多くの仲間がいます。

### 連載

|                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| マルサ(株) 代表取締役 浦田 恵美子さん | 52               |
| 法律相談 相続、29            | 協会顧問弁護士 楠田 堯爾 54 |





## 新春を迎えて

愛知県知事 神田 真 秋

あけましておめでとうございます

県民の皆様方には、健やかに新春をお迎えのことと存じます。

今年が、皆様方にとりまして、充実した一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、最近の経済状況は、生産活動の回復などから企業収益によりやく明るい兆しが見られますが、雇用・所得環境は依然として厳しさが続いております。さらには物価の下落や為替相場の急激な変動などの懸念材料もあり、景気は予断を許さない状況にあります。

こうした厳しい状況の中で、新しい年を迎えますが、県民の皆様方とともに、この難局を乗り越え、愛知の未来に向け力強い一歩を踏み出してまいりたいと考えております。

昨年は、アメリカ、日本で政権交代が起こるなど世界的に大きな変化を感じさせる年でありました。とりわけ、我が国の政権交代は歴史的なことであり、様々な分野に影響が及んでくると見込まれますが、こと県政運営にあたっては、県民の皆様方の目線でしっかりと舵取りを行ってまいります。

このため、まず当面は、雇用対策や中小企業の経営支援など地域経済を下支えするとともに、地域医療の充実や子育て・子育て環境の整備、交通安全対策など県民の皆様方の日々の安心、安全の確保に力を注いでまいります。

その上で、中長기를展望した愛知の発展に向け、航空宇宙産業などの次世代産業の育成、将来の飛躍の基盤となる社会資本の整備、来たるべき低炭素社会に向けた取組などを積極的に進めてまいります。

また、いよいよこの夏から秋にかけて、地域を挙げて準備を進めてきた二つの大きな事業、環境分野における最大級の国際会議であるCOP10と国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」が開催されます。ぜひともこれらを成功させ、愛知の総合力をさらに高めてまいりたいと考えております。

新しい年も、引き続き本県財政は厳しい状況が続きます。徹底した行財政改革を進めることはもちろんありますが、大きな時代転換の本質を見極め、現下の危機の克服と将来にわたる愛知の発展に全力で取り組んでまいる所存であります。

県民の皆様方の格別のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成二十二年元旦





## 歴史に残る街ナゴヤ

名古屋市長 河村 たかし

新年あけましておめでとうございます。

愛知県産業廃棄物協会の皆様には、健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

市民の皆さまには、昨今の厳しい経済情勢の中、納税していただきまして、誠にありがとうございます。市民の皆さまには大変感謝をしております。本年もパブリックサーバントの精神を職員一同肝に銘じて職務に精励してまいります。

さて、名古屋市ではいよいよ市民税10%減税と地域委員会制度を実施する予定です。減税によって人と企業が集まり、日本一早く景気回復を果たすとともに、地域委員会によって地域のことを地域住民が決める新たな住民自治の仕組みを作ってまいります。

歴史を紐解きますと、名古屋は名古屋城築城と清須越に始まるまちづくりから四百年、さらに熱田神宮は千九百年の歴史を有しています。その意味では、名古屋は最も歴史のある大都市と言えるでしょう。

その歴史ある名古屋の街で、戦災復興の計画に代わる新しいまちづくりの計画を策定していく予定です。歴史の息吹を感じる街、水と空気のおいしい冷暖房がいない街、そして街角などに音楽の溢れる楽しい街にしていきたいと思っております。

また、不法投棄もなく、きれいで住みたくなる街にするためにも皆様のご尽力が欠かせません。

本年もどえりゃあご支援をお願いいたします。

平成22年元旦





## 世界不況は大チャンス



社団法人 愛知県産業廃棄物協会会長 近藤成章

新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、平成22年の清々しい新年を迎えられ、ますます御清栄のことと、心よりお喜び申し上げます。

昨年は、不況の大合唱と新型インフルエンザで一億総マスクのうちに暮れました。情けないことでした。

今年は、寅年です。寅は、一気に千里を駆けるといわれております。その寅にあやかり、今年の世界経済が一気に回復し、大きな繁栄の始まりの年になって欲しいものと思っております。

政権交代で民主党政権が発足し、去年を象徴する漢字が「新」となったように、新しい鳩山内閣に多くの人々が期待をしたのでありますが、闇がゆい議論に終始し、空振りの三振に終わるのではないかと懸念されるところであります。

世界中が大不況の今こそ、日本にとっては大チャンスであります。今の日本の状況は、いわば、明治維新と8月15日が一緒に来た状況、盆と正月と一緒に来たといってもよい状況と、前向きに捉えていこうではありませんか。今の状況は、まさに百年に一度の大チャンスであります。

ここで日本経済をいち早く回復させ、世界の先頭に立ち、アジアや発展途上国を先導する役割を果たしていかなければなりません。

これから人類が、末永く明るく楽しい未来が開けるようなシステムを、今こそ構築していかなければなりません。

このときにあって、国債発行枠の多少に拘泥しているのは愚かしいことでもあります。まず、経済の活力を回復させなければなりません。民主党は、「コンクリートから人間へ」をキャッチフレーズに国民の支持を得たのでありますから、国民生活が豊かなものになるような施策をどんどん講じてもらわなければなりません。人生100歳時代の到来が現実のものとなりつつあるこの時代に、長生きしてよかったと思える政策を展開してもらいたいものです。

昨年の豊橋におけるウズラの鳥インフルエンザが、東三河支部の皆様のご献身的な努力により、早々に終息宣言が出されたことは、誠にうれしく、作業に携わっていただいた皆さん方に深く深く感謝申し上げますと存じます。このような大ピンチに際しお役に立てたこと、また、愛産協の真価を内外に示すことができたことに重ね重ね感謝申し上げます。

人の新型インフルエンザに関してもこのように早く終息宣言が出て、学級閉鎖などない、子供たちの明るい笑い声に包まれた学校に戻って欲しいものです。

今年は、愛知、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催され、世界中から専門家や関係者がこの地域に集い、地球環境のあり方について議論が繰り広げられ、この地域が2005年のあいち万博以来の国際的な注目を浴びる年でありまして、大きな成果が挙げられることを期待いたしております。この会議は、我々産業廃棄物関係者にとっても今後の飛躍に繋がる大きなチャンスとして、躍進への手がかりとしていかなければなりません。まさに、チャンス、チャンス、チャンスであります。愛産協としても、会議の成功に向け、大いに協力していかなければなりません。

今年も、力を合わせて前進していきましょう。

皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

平成22年 元旦



## 名古屋支部



支部長 永井 良一  
永一産商(株)

|      |       |               |
|------|-------|---------------|
| 副支部長 | 五箇 始  | (有)森田商店       |
| 副支部長 | 高木 英泰 | (株)富士石油商会     |
| 会 計  | 松原 高治 | (株)ユニオンサービス   |
| 委 員  | 伊藤 博之 | (株)ダイセキ       |
| "    | 浦田恵美子 | マルサ(株)        |
| "    | 門川 浩人 | (株)竹 常        |
| "    | 古賀 正明 | 名古屋コンテナ(株)    |
| "    | 日比野 均 | (株)ダイエーディスボウズ |
| "    | 新美 三良 | (有)三洋サービス     |
| "    | 西山 幸光 | (株)西山商店       |
| "    | 平沼 辰雄 | (株)リバイブ       |
| "    | 川根 武  | 大矢建設(株)       |
| "    | 清水 善実 | (株)シミズ        |
| "    | 水野 良夫 | 中部リサイクル(株)    |

新春のお慶びを申し上げます。

年頭に際し協会員の皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

昨年は、世界的な不況下における産業活動の低迷を反映し、我々産業廃棄物業界にとっても大変な年でありました。

また、国内政治の面におきましても衆議院選における民主党の地すべりの勝利により大きな地殻変動が起き、新しい政権が発足して3箇月以上が経過しましたが、どのような経済運営がなされ、新たな国づくりがなされていくのか、中々その姿が見えてまいりません。

こうした状況ではありますが、我々愛産協会員は、適正処理を行うという協会会員としての原点を見失うことなく、手を携え、結束を強めていかなければなりません。

本年も、昨年以上に協会及び支部活動にご協力とご参加をお願いいたします。



## 謹賀新年

協会員の皆様のますますのご発展をお祈り申し上げます。

平成二十二年 元旦

名古屋支部

## 尾張西支部



支部長 新家 義彦  
(有)ホクトサービス

|      |       |             |
|------|-------|-------------|
| 副支部長 | 平沼 健一 | (株)ヘイセイ     |
| 副支部長 | 片山憲三郎 | (株)金属資源開発商会 |
| 会 計  | 堀川 政男 | (株)アメニティライフ |
| 委 員  | 梅田 慎吾 | (株)宮 崎      |
| "    | 岡田 行男 | (株)オカダ      |
| "    | 坂本 悟  | (有)木村建設     |
| "    | 山崎 真裕 | (有)尾張商事     |
| "    | 金光 相雲 | (株)金 光      |
| "    | 中島 博史 | 昭栄金属(株)     |
| "    | 鶴山 圭一 | (株)星野産商     |
| "    | 加藤 慎史 | (株)海部清掃     |
| "    | 加藤 健二 | 高和興業(株)     |
| "    | 田中 進一 | (有)トクイチ     |
| "    | 富田 昭雄 | (株)富田商店     |

新しい年を迎え皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。会員の皆様には、協会並びに支部活動へのご理解、ご協力に心より感謝いたします。

さて、昨年政権交代、事業仕分け等いろいろありましたが、景気低迷をそのまま引きずって今年も始まりました。

この今だ出口の見えないトンネルの中を進んでいる状況ですが、そんな中で私たちは使用済製品、資材、廃棄物を回収し、再利用、再資源化はもとより今後はそれらに付加価値を高めて経営を維持してゆく方向へ向かって行かなければならないのかなと感じます。

会員の皆様方に於かれては、これからもより一層コンプライアンスを高め、適正処理、リサイクルにつとめて頂きたいと思います。

謹賀新年の  
お慶びを申し上げます  
コンプライアンスを高め  
適正処理、リサイクルに  
つとめます  
平成二十二年 元旦  
尾張西支部





## 尾張北支部



支部長 竹内 良一  
名環サービス (株)

- 副支部長 森 竜也 (株) 東立テクノクラシー  
会 計 川合 邦史 (有) リプロ  
委 員 南村 勝己 大和エンタープライズ (株)  
〃 加藤 直毅 王春工業 (株)  
〃 中野 弘 (株) 東伸サービス  
〃 金田 英治 三州土木 (株)  
〃 木下 力哉 三幸土木 (株)  
〃 中西 清 (株) 尾張クリーンパイプ  
〃 高山 靖徳 フジ建材リース (株)  
〃 鈴木 隆真 (有) リョクリン  
監 査 藤本セツ子 (株) フジモト

新年明けましておめでとうございます。  
愛産協会員の皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年中は、協会及び支部の諸活動に積極的なご参加をいただきありがとうございました。

本年は、デフレの進行が憂慮されるような厳しい状況下に明けたのですが、このようなときこそ協会員一同が結束して情報交換をしながら、適正処理を堅持することにより、社会の信頼を勝ち得る努力をしていかなければなりません。

今秋には、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)がこの愛知、名古屋で開催され、また、国際的な現代美術の祭典であるあいちトリエンナーレ2010も開催されるなど、この地域が2005年のあいち万博以来の国際的な注目を浴びる年になります。

環境の世紀といわれるこの時代にあって、私たち産業廃棄物処理に携わる者としても広い視野で業界の将来を展望し、CO<sub>2</sub>の削減などへの取り組みの方向を探っていかなければならないものと思っております。

本年もよろしくお願い申し上げます。



## 尾張南支部



支部長 金田 英和  
サンコーリサイクル (株)

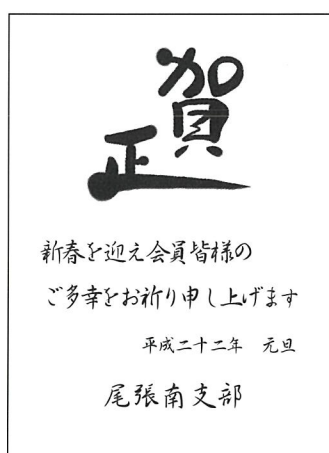
- 副支部長 大川 和男 協材砕石 (株)  
副支部長 都筑 武満 (株) 野間砂鋳業所  
会 計 新井 栄済 (株) 上野清掃社  
委 員 相木 邦昭 オオブユニティ (株)  
〃 中嶋 久則 久栄運輸 (株)  
〃 平村 成一 (株) テクア  
〃 渡辺 勝広 豊田ケミカル  
エンジニアリング (株)  
〃 鈴木 茂次 (株) 日 誠  
〃 永田 喜裕 (株) エイゼン

平成22年新年あけましておめでとうございます。

愛産協会員の皆様、並びに尾張南支部会員の皆様に謹んで新春のお喜びを申し上げます。

昨年は政権交代という一大イベントがありましたが、景気に対してはたいした効果もなく、年末にかけ円高、デフレと、生活に不安を残すような1年だったようです。さて、今年は、というと？誰も予想がつかないのではないのでしょうか。政府の政策次第ではありますが、企業経営にとってまだまだ厳しい環境が続く事は、会員の皆様も肌で感じておられる事と思います。しかしながら、マスコミがしきりに報道するように、『不況だ』『デフレだ』と皆が言っているのは良くなるものもよくなりません。近藤会長がいつもおっしゃられるように、『今こそ百年に一度のチャンスだ！』と考え、業務に積極的に取り組んでいくべきではないのでしょうか。

今年も尾張南支部は、会員同士の交流をテーマとして活動に取り組んでまいります。会員の皆さんのご指導ご協力あつての尾張南支部です。どうか積極的な参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、会員各位のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。





## 西三河支部



支部長 梅村 正裕  
(株) 鈴 鍵

|      |       |               |
|------|-------|---------------|
| 副支部長 | 近藤 千雅 | 中部保全(株)       |
| 副支部長 | 板倉 重治 | 高岡造園土木(株)     |
| 会 計  | 天野 邦彦 | 岡崎技研(株)       |
| 委 員  | 石川 信夫 | (有) アイミ       |
| "    | 石山 進  | (株) エヌジェイエス   |
| "    | 荒井 和一 | サンエイ(株)       |
| "    | 池田 仁  | (有) 大心実業      |
| "    | 梅谷 岳志 | (有) 花丘商事      |
| "    | 加藤 淑也 | 井戸松建設興業(株)    |
| "    | 角谷 圭祐 | 石橋建設興業(株)     |
| "    | 長坂 正志 | 長坂建設興業(株)     |
| "    | 田中 和夫 | 巴興業(株)        |
| "    | 増田 賢司 | 豊田産棄(株)       |
| "    | 八代 信  | (株) 三河オイルセンター |
| "    | 山本 雅樹 | 山本石産(株)       |

新年あけましておめでとうございます。  
昨年中は西三河支部の活動に対しまして、支部会員の皆様、行政諸団体の皆様、そして地域の多くの皆様には大変お世話様になりました。誠にありがとうございます。

昨年、コペンハーゲンでCOP15が開催され、日本でも話題になりましたが、地球規模での環境破壊の速度が加速し、地球温暖化による大規模災害が世界各地で発生、尊い人命財産が消失、私たちの日常生活を脅かし、身近な生態系にも大きな異変が現れています。

私たち産業廃棄物処理業者として、絶えず環境問題を意識して事業活動をしていかねばなりません。私たち支部会員はいかなる厳しい経済環境の中においても産業廃棄物の適正処理を推進し、生活環境保全、公衆衛生の向上を図ることが使命であります。その為には法令を順守して環境保全のため社会的良識と自信と誇りを持って支部会員力を合わせて活動していきたいと思ひます。安心、安全そして潤いのある地域社会を目指して本年も支部活動を展開していきたいと思ひます。

皆様の益々のご多幸を祈念申し上げますとともに、本年もご協力のほどどうか宜しくお願ひ申し上げます。

迎春  
法令を順守して  
環境保全に務めます  
平成二十二年 元旦



西三河支部

## 東三河支部



支部長 小島 晃  
(株) 明輝クリーナー

|      |       |                |
|------|-------|----------------|
| 副支部長 | 長崎 正敏 | (株) トヨジン       |
| 副支部長 | 井本 太郎 | (株) イモト        |
| 会 計  | 莊司 敏彦 | サーラ物流(株)       |
| 委 員  | 彦坂 孝明 | (株) エムエムアイ     |
| "    | 松井 忠博 | (有) 松井工業       |
| "    | 金海慶太郎 | (有) ビソー環境      |
| "    | 筒井 宏一 | (株) 山治紙業       |
| "    | 竹内臨通夫 | 三州建設(株)        |
| "    | 鈴木真理子 | (株) マルコー商会     |
| "    | 鬼頭 秀幸 | (有) リサイクルリング産業 |
| "    | 安井 康二 | 前芝建材(株)        |
| "    | 伊藤 良文 | (株) マルサワ       |
| "    | 富田 雅則 | 田原環境サービス(株)    |
| "    | 清水 宏臣 | (有) 清水商店       |
| 監 査  | 宮川 幹夫 | 壽鑑業(株)         |

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、デフレスパイラルということで、消費財の価値が下がり、私たち業者にも顧客、排出事業所より、値下げ依頼が殺到するという異常事態でした。

変化に対応するのが「経営」であるならば諸々と無理な値下げ要求を飲むのか、はたまた、同業同士の顧客争奪をするのが良いのか正しい答えはありません。

単なる縄張り意識に「俺のモノは盗るな」では、時代社会が納得しませんし、

無自覚的に「企業努力で営業が取るのは当然」で値下げ競争に走るのも、先見力のある人のやることではありません。大きな時代変化の刻です。深く悩み思索すべきかと思ひます。どこへ進みどういう経営目標を持つか、今年は大いに議論し私に知恵を与えてください。宜しくお願いします。

併せて、昨年は高病原性鳥インフルエンザの防疫作業に、40社延べ2,900名が地域社会に貢献し産業廃棄物業界が高く評価されたことにお礼申し上げます。

恭賀新年  
謹んで新年のお慶びを申し上げます  
平成二十二年 元旦



東三河支部



## 青年部会



会長 加山順一郎  
加山興業(株)

副会長 浅井 明利 (有) 浅井商店  
徳石 正 (株) ティーエスクリエイト  
森 竜也 (株) 東立テクノクラシー

委員長

(運営委員会) 伊藤 智織 (株) 宮崎  
(交流委員会) 永井 弘児 永一産商(株)  
(経営開発委員会) 近藤 大樹 中部保全(株)

総括幹事 富田 昭雄 (株) 富田商店

会計 飯田 宏之 (株) 明輝クリーナー

会務 石川 太一 (有) アイミ

相談役 新美 三良 (有) 三洋サービス

監事 永田 幹人 (株) エイゼン

監事 高木 英泰 (株) 富士石油商会

新年明けましておめでとうございます。

昨年青年部会では、(社)全国産業廃棄物連合会の「地球温暖化対策のための環境自主行動計画の推進」に則り「CO<sub>2</sub>マイナスプロジェクト」をスタート致しました。

地球温暖化防止のための一歩を踏

み出し、次世代に美しい地球を残す活動に、愛知県内のみならず全国青年部会員と共に取り組んで参ります。若い力を結集し、一致団結して運営していく所存でございます。

本年も宜しく願い申し上げます。

謹賀新年

全国の青年部会員と共に  
一致団結して頑張ります  
平成二十二年 元旦  
青年部会

## 社団法人 愛知県産業廃棄物協会 役員一同

### 新年あけましておめでとうございます

旧年中は協会の運営並びに支部事業への多大なるご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年も会員の皆さまのますますのご発展に寄与すべく、全力をあげ協会運営に取り組んでまいる所存です。本年もよろしくお願い申し上げます。



|                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 会長 近藤 成章 近藤産興(株)          | 理事 南村 勝己 大和エンタープライズ(株) |
| 副会長 彦坂 孝明 照山砕石(株)         | 〃 石川 信夫 (有) アイミ        |
| 〃 加山 昌弘 加山興業(株)           | 〃 黒川 明 福田三商(株)         |
| 専務理事 中谷 光孝 (社) 愛知県産業廃棄物協会 | 〃 梶田 弘一 (社) 愛知県建設業協会   |
| 常務理事 相木 邦昭 オオプユニティ(株)     | 〃 増田 紀之 東亜合成(株) 名古屋工場  |
| 〃 永井 良一 永一産商(株)           | 〃 杉山 徳雄 名古屋菱重興産(株)     |
| 理事 伊藤 博之 (株) ダイセキ         | 〃 小島 晃 (株) 明輝クリーナー     |
| 〃 堀川 政男 (株) アメニティライフ      | 〃 梅村 正裕 (株) 鈴鍵         |
| 〃 川根 武 大矢建設(株)            | 〃 佐藤 正行 サトマサ(株)        |
| 〃 加藤 直毅 王春工業(株)           | 〃 高木 英泰 (株) 富士石油商会     |
| 〃 武田 英裕 豊田ケミカルエンジニアリング(株) | 〃 水野 良夫 中部リサイクル(株)     |
| 〃 新家 義彦 (有) ホクトサービス       | 監事 金田 英和 サンコーリサイクル(株)  |
| 〃 石山 進 (株) エヌジェイエス        | 〃 近藤 千雅 中部保全(株)        |
| 〃 平沼 辰雄 (株) リバイブ          |                        |



# (社)愛知県産業廃棄物協会 平成22年 新年交礼会 開催



平成22年（社）愛知県産業廃棄物協会新年交礼会が1月6日（水）午後5時から、名古屋駅の名古屋マリオットアソシアホテルで会員ら450名が出席し、愛知県議会議員、名古屋市議員、愛知県副知事、環境省中部地方環境事務所・愛知県・名古屋市・豊橋市・岡崎市・豊田市の環境行政担当者、関係団体の理事・役員の方など多数の来賓をお招きして盛大に開催されました。

近藤成章会長は挨拶で「日頃は協会運営に多大なご尽力を賜り順調に事業を進めることができましたことを心よりお礼申し上げます。さて、新しい年を迎え、我が国はデフレ経済、新政権の事業仕分けなどにより、公共事業は“コンクリートから人へ”の



開会の辞を述べる彦坂副会長

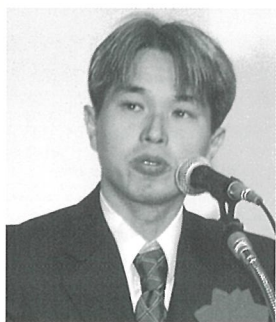
中、大幅に削減され、我々産廃業界と深いつながりのある建設業界は大きな打撃を受け、我々業界も大変な影響を受けています。こうした時こそ、日本が60年、70年かけて貯えてきたエネルギーを使って、世界

の困っている所に手を差し伸べる、日本が頑張って世界をリードするチャンスです。今年は生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）がこの名古屋で開催され、世界中から多くの人が集まり、環境問題が大きなテーマになります。産業廃棄物の適正処理や資源循環に取り組む我々業界にとって、まさに得意とする分野です。我々のビジネスエキスを大いに発揮して、知恵を絞り、力を合わせて前進しましょう」と会員に向けて“チャレンジ”を



新年の挨拶を述べる近藤会長



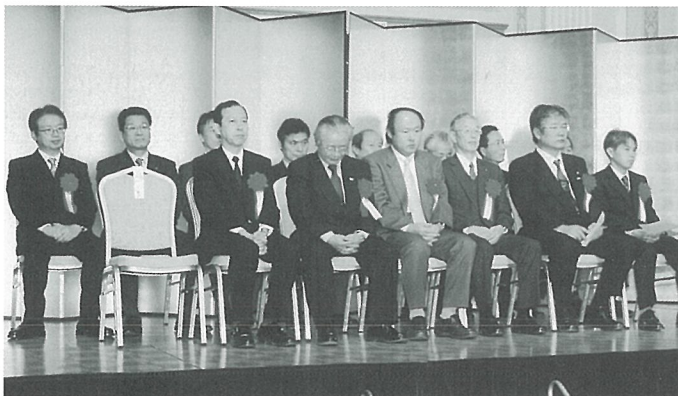


環境省 小野寺課長

強く呼び掛けました。

続いて来賓を代表して、環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課課長 小野寺秀明氏は「経済や政治の変化で私ども環境省についても例外ではなく、予算案でも公共事業費が大幅に削減されましたが、チャレンジ25の事業費については確保されました。環境省ではチャレンジ25に代表される低炭素社会の実現にむけて3本柱を掲げ、さまざまな事業を行っています。中部地

方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課では、この地方の環境保全を経済成長、地域活性化がうまく進んでいくよう、あらゆる施策を通じて取り組んでいるところです。その中で今年の重点業務としては、地域の特性や廃棄物の発生に応じて最適な規模の循環を形成する地域循環圏の建設を打ち出しています。これは産廃事業者の皆さんが日頃携わっている全ての循環ビジネスに係るもので、環境省全体の重点施策でもあり、資源循環社会の構築に直結するものです。また、資源の有効利用という観点から、地球温暖化対策にも繋がる重要な取り組みです。ここに循環ビジネスの市場推移というデータがありま



〈ご来賓〉(順不同・敬称略)

参議院議員(代理) 秘書

愛知県議会議員

愛知県議会議員

名古屋市議会議員

愛知県副知事

環境省中部地方環境事務所

廃棄物・リサイクル対策課 課長

廃棄物・リサイクル対策課 廃棄物対策等調査官

愛知県環境部 資源循環推進監

愛知県環境部 資源循環推進課 課長

愛知県環境部 資源循環推進課 主幹

名古屋市環境局 事業部 部長

名古屋市環境局 事業部 廃棄物指導課 課長

名古屋市環境局 事業部 廃棄物指導課 産業廃棄物審査係長

豊橋市環境部 廃棄物対策課 課長

豊橋市環境部 廃棄物対策課 課長補佐

加納 満

加藤 みなみ

直江 弘文

佐橋 典一

稲垣 隆司

小野寺 秀明

岩田 浩幸

伊藤 勝至

渡邊 修

近藤 行宏

渡辺 勲

小坂 元信

水野 次男

大竹 英文

水藤 祐史

岡崎市環境部 廃棄物対策課 課長

岡崎市環境部 廃棄物対策課 審査2班 班長

豊田市環境部 廃棄物対策課 課長

豊田市環境部 廃棄物対策課 副主幹

財団法人 愛知臨海環境整備センター 専務理事

社団法人 岐阜県産業環境保全協会 専務理事

社団法人 静岡県産業廃棄物協会 会長

社団法人 三重県産業廃棄物協会 会長

社団法人 三重県産業廃棄物協会 専務理事

中部産業廃棄物厚生年金基金 理事長

社団法人 中部経済連合会 技術部長

愛知県中小企業団中央会 総務部長

楠田法律事務所 所長(顧問弁護士)

愛知県衛生事業協同組合 専務理事

名古屋市一般廃棄物事業協同組合 事務局長

池田 幸靖

深川 勇二

福岡 達治

武田 雅彦

岩渕 準

広瀬 利和

梅原 秀夫

木村 亮一

小川 治彦

新井 相権

河野 義信

水野 吉博

楠田 堯爾

猿渡 伸次

尾関 敏教



す。これによると循環ビジネスは10年前に比べて1.4倍の成長で、雇用規模は2倍となっています。厳しい経済状態ですが循環ビジネスのような新しい産業を育て、廃棄物の適正処理と資源循環社会構築のため、皆様と一緒に取り組んでいきたいと思っています」と協会との連携を強調しました。



愛知県 稲垣副知事

続いて愛知県副知事 稲垣隆司氏は「まず2点、協会にお礼をご報告させていただきます。昨年2月、東三河で発生したウズラの高病原性鳥インフルエンザの防疫作業にあたり、愛産協の皆様が大変お世話になり、短

期間で処理することができました。もうひとつは愛産協近藤会長が昨年11月に本県で最も権威ある愛知県条例表彰を受賞されたことです。改めてお礼を申し上げます。さて、昨年の秋から本県経済は大変厳しい状況にあり、一部では若干明るい兆しの業種もありますが、生産水準はまだ低く、個人消費も低迷しています。県税も昨年度よりかなり減るという見込みです。しかし、こうした状況下でも県民の安心と安全な社会生活を守るのが我々に課せられた重要な仕事です。自動車産業の一層の高度化や航空宇宙産業をはじめ次世代の産業の育成に十分取り組まなくてはなりません。しかし、どういう産業が生まれたとしても廃棄物は発生するので、廃棄物処理も含めた産業の育成が大切です。今年はCOP10が10月に開かれ、8月には国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」もこの名古屋で開催されます。こうしたことを通じてこの地域の総合力がさらに高まり、“元気な愛知”を取り戻す起爆剤になればと思います」と述べられました。



愛知県議会 加藤議員

続いて愛知県議会議員 加藤みなみ氏は、小林一茶の一句『めでたさも 中位なり おらが春』を引用して「経済も大変混乱して、身の細る思いをしております。こんな状況の中でも、いかに節約するか、いかに環境を大切にするか、我々人類に課せられた大きな課題です。このことは皆様方の産廃業界が先頭に立ってひとつひとつの課題を解決に向かって前進していただきたいと思います」と産廃業界への期待を力強く述べられました。



乾杯の発声を行う佐橋市会議員

来賓挨拶の後、来賓者ひとりひとりの紹介があったあと、名古屋市会議員 佐橋典一氏の乾杯の発声で会場は新年のおめでたい雰囲気になりました。アトラクションでは、太閤連の皆さんによる阿波踊りが披露され大いに盛り上がり、加山昌弘副会長の中締めでお開きになりました。



阿波踊りを披露する太閤連の皆さん



# 土壤汚染対策法が改正されました

県民の生活環境の保全等に関する条例の見直しを検討しています

日頃より、本県の土壤及び地下水環境行政に格別の御協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

土壤汚染対策に関して、国は土壤汚染対策法の一部を改正する法律を平成21年4月24日に公布し、22年4月1日から全面施行します（以下改正後の土壤汚染対策法を「改正法」という。）。

また本県においては県民の生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）が平成15年10月1日に施行されて6年が経過し課題が出てきました。現在、改正法及び本県の課題への対応のため、条例の土壤及び地下水の汚染防止に関する規制についての見直しを行っているところです。

## 1 土壤汚染対策法の改正

### （1）改正の理由

法の施行から5年が経過し、土地の売買や企業の自主的な環境管理などのために実施される法に基づかない土壤調査（自主調査）により土壤汚染が判明することが多くなっており、また、土壤汚染の措置として掘削除去が多く行われ、過剰な負担となっていることに対処する目的から法が改正されました。

### （2）改正法の概要

#### ア 土壤汚染状況の把握のための制度の拡充

一定規模（省令案では3,000m<sup>2</sup>）以上の土地の掘削等の形質の変更を行おうとする者は、知事に届出をし、知事は、その土地に土壤汚染のおそれがあると認めるときは、土地所有者等に対し、調査を命ずることとされました。

また、自主調査により土壤汚染が判明した場

合には、要措置区域等（後述）に指定するよう申請することができる規定が設けられました。

#### イ 規制対象区域の分類等による講ずべき措置の内容の明確化

土壤汚染が判明した場合に指定する区域を健康被害が生ずるおそれの有無に応じ「要措置区域」及び「形質変更時要届出区域」（以下「要措置区域等」という。）に分類し、必要とする措置が明確にされました。

#### ウ 搬出土壤の適正処理の確保

要措置区域等から汚染土壤を搬出する場合には、事前届出や運搬の基準遵守、搬出者氏名や処理施設等を記載した管理票の使用が義務付けられました。

また、汚染土壤処理業の許可制度を新たに設け、汚染土壤を搬出する場合は知事の許可を受けた汚染土壤処理業者に処理を委託しなければならないこととされました。

汚染土壤の処理施設は、浄化等処理施設、セメント製造施設、埋立処理施設、分別等処理施設の4種類が規定されました。汚染土壤処理業の許可に当たっては、汚染土壤等の飛散や地下浸透などを防止する構造、排出水を公共用水域に排出する場合の処理設備の設置、施設の維持管理等を的確に行ないうる知識等を有する者の配置などが必要とされました。

なお、汚染土壤処理業の許可の申請に係る部分については平成21年10月23日から施行されました。



## 2 条例の土壌及び地下水の汚染防止に関する規制の見直し

土壌及び地下水の調査及び汚染が判明した場合の措置についての明確化や改正法との整合を図る必要等から、本県では条例の規制の見直しについて平成21年8月19日に愛知県環境審議会に諮問しました。同地盤環境部会で審議され、11月11日に中間とりまとめがなされましたが、その見直しの視点は次のとおりです。

### (1) 特定有害物質等取扱事業所の廃止時等の土壌及び地下水の調査

- ・ 特定有害物質等取扱事業所の廃止時等における調査の実施の義務化
- ・ 対象を、土壌・地下水汚染の事例が多い水質汚濁防止法の特定事業場やガソリンスタンドなどに限定

### (2) 土壌汚染が判明した場合の措置

- ・ 汚染が判明した場合に、特定有害物質等取扱事業者、土地の形質変更を行う者、土地所有者等は、応急措置に加えて汚染の拡散を防止する措置を実施することを明確化

### (3) 法や条例の規定に基づかない土壌調査（自主調査）の取扱い

- ・ 土壌・地下水の調査方法について定め、汚染が判明した場合の知事への報告を規定することで、行政の関与を明確化
- ・ 知事は、汚染の拡散防止の措置の実施等について助言

### (4) 汚染土壌処理業の許可に係る生活環境影響調査等の実施

- ・ 汚染土壌処理業の許可申請者に対し生活環境影響調査等の実施について明確化

### (5) 土地の形質変更時における規定の整理

- ・ 3,000m<sup>2</sup>以上の土地の形質の変更に係る手続きについて、これまで条例で実施してきた履歴調査の規定は残す。

今後、同審議会の答申を受けた後、改正条例案を平成22年2月の愛知県議会に上程し、同年4月1日（一部の内容は10月）の施行を予定しています。

(注 この原稿は平成21年12月17日現在で作成したものです。)



## 愛知で、新たな循環ビジネス。 循環ビジネス創出会議に参加しませんか。

### ■ 循環ビジネス創出会議とは

愛知県では、平成18年5月から、県庁西庁舎1階北東角に「あいち資源循環推進センター」を開設しています。

当センターは、循環型社会を実現するためには、環境と経済の好循環を構築していく必要があるとの認識のもと、新たな循環ビジネスを始めようとされる方々を様々な角度からサポートするために創設したものです。

そのセンターの活動の1つが、環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)\*と協働の下、企業、大学、行政、県民が一堂に会し、連携を深め、新たなビジネスを生み出すことを目的とした「循環ビジネス創出会議」です。

会議の開催形式は、特定のテーマに絞って専門的な議論を交わしたり、ビジネスマッチングを目的にプレゼンテーションとポスターセッションを行ったり、あるいは愛知県が実施している表彰制度「愛知環境賞」を受賞した先進的な取組を実施している企業を訪問したりと多彩です。毎年5～6回のペースで開催しています。

\*環境パートナーシップ・CLUB(略称:EPOC)は、環境行動に熱意のある企業・団体等280社が集まり、業種・業態の枠を越えて環境負荷低減活動等に関する研究、交流、実践及び情報発信を行っている団体です。

### ■ 平成21年度の開催状況

#### (1) 愛知環境賞受賞事例現地見学会1

平成21年7月23日(木)に開催した現地見学会では、中部リサイクル(株)の「ごみ焼却灰および飛灰の熔融脱塩による再資源化施設」【2005年優秀賞】、(株)アイ・アンド・ティーの「空気圧洩れ検知器ソニックキャッチャー」の実演【2005年銀賞】及び(株)INBプランニングの「原料廃ゴムの

マテリアルリサイクル施設」【2006年優秀賞】を見学しました。

※それぞれの事業の詳細は、「あいち資源循環情報システム」のwebサイトに掲載しています。

URL: <http://aichi-shigen-junkan.jp/>



#### (2) 愛知環境賞受賞事例現地見学会2

10月22日(木)に開催した現地見学会では、小島プレス工業(株)の「グリーンIT(環境に配慮した情報技術)によるCO<sub>2</sub>削減」の取組【2009年優秀賞】、シーピーセンター(株)の「安心のデータ消去でパソコンのリサイクル、レアメタル回収を行う施設」【2009年優秀賞】及び(株)三進製作所の「資源化センターシステム」【2007年銀賞】を見学しました。





### (3) ビジネス及び研究発表会

11月6日(金)には、愛知県産業労働センター(ウインクあいち)にて、循環ビジネスに意欲的に取り組んでいるものの、自ら販路開拓や業務提携が難しい中小企業や研究成果を社会に発表したい大学の若手研究者を支援することを目的とした「ビジネス及び研究発表会」を開催しました。

当日は、「プラスチック」、「バイオマス」、「陶磁器・建材」、「汚泥・レアメタル」の4分野を取り上げ、28の企業・大学が自慢のリサイクルビジネス・技術研究の内容を発表し、続くポスターセッションの場では、発表者と参加者との間で意見交換がなされました。

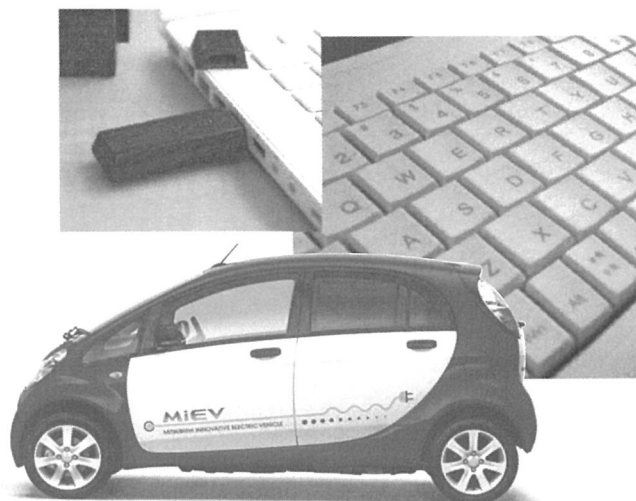


### (4) 森林資源を工業に活かす、新産業創出のための交流会議

12月21日(火)には、同じくウインクあいちにて、工業デザインの専門家や森林資源の活用に関心を持って取り組む企業を招き、森林資源を活用する新たな製品の開発や普及のためのヒントやアイデアを探る「森林資源を工業に活かす、新産業創出のための交流会議」を開催しました。

会議では、パジェロ、ミニカ、自動車玩具チョロQ、北海道民芸家具のデザイン開発に携わった名古屋市立大学大学院教授の國本桂史氏に「木材を活用した新たな需要開拓のあり方について」と題して講演をいただきました。

続くパネルディスカッションでは、まず最初に三菱自動車工業(株) 寺澤 勇氏から「竹やスギ間伐材を利用した自動車用樹脂部品の開発」の取組、(有)山口工芸(福井県鯖江市) 市橋人士氏から「漆器木地作りとパソコン周辺機器などの新たな製品分野とを融合させた木工ブランド「H a c o a」の取組」を発表いただきました。続いて、発表者に愛知県森林組合連合会 村松幹彦氏、持続性木質資源工業技術研究会 笠木和雄氏が加わり、國本先生のコーディネー





ネットの下、参加者からの質問に答える形で森林資源を活用した新たな商品開発のあり方などについて意見交換が行われました。

会場後方では、木を木として使った製品から、樹脂材料としての利用、エネルギーの利用、新たな流通システム構築など、12の企業の意欲的な取組の展示を行いました。

#### ＜出展企業と製品＞

- ・フルハシEPO(株)  
間伐材を利用したパレット「グリーンパレット」
- ・旭硝子(株)  
木製断熱窓「もくまど」
- ・(株)ビックウィル  
天然木シート「樹の紙」
- ・(有)山口工芸  
木工ブランド「H a c o a」
- ・金子眼鏡(株)  
間伐材眼鏡「森彩 (もりのいろ)」
- ・(株)ポッカコーポレーション  
間伐材を利用した紙容器「カートカン」
- ・ゼロワンプロジェクト(株)  
天然木自在シート「テメージュ」
- ・名古屋港木材倉庫(株)  
木質系廃棄物の一括処理
- ・(株)ニッタクス  
積層強化木「コムプライト」
- ・三菱自動車工業(株)  
竹やスギ間伐材を利用した自動車用樹脂部品
- ・中日精工(株)  
プラスチック代替木質成形体「モクチック」
- ・中澤建設(株)  
製鋼燃料用木炭



#### ■ メールマガジン「Center News」の配信

あいち資源循環推進センターでは、本年度から循環ビジネス創出会議を始め、リサイクル補助金や愛知環境賞の募集など当センターの活動に関する情報を、メールマガジン「Center News」に掲載して配信しています。

配信をご希望される方は、電子メールにて、件名に「Center News配信希望」、本文に以下の項目を記載の上、お申し込みください。

##### ◇ 記載事項

- ① お名前
- ② 会社名（個人の場合は不要）
- ③ 所 属
- ④ 電話番号
- ⑤ 配信先のメールアドレス

##### ◇ メールの送付先

あいち資源循環推進センター

（愛知県環境部資源循環推進課循環グループ内）

E-mail : junkan@pref.aichi.lg.jp



# 「石綿(アスベスト)による健康被害の救済に関する法律」が一部改正されました。

石綿により、中皮腫や肺がんにかかった方及びそのご遺族の方に対し、環境再生保全機構は医療費等や一時金(特別遺族弔慰金等)を支給しています。法改正により、平成20年12月1日から以下のとおり支給が拡充されました。

① 医療費等の支給が療養開始日までさかのぼります。

医療費、療養手当の支給開始日が、認定の申請をした日(認定申請日)から「療養を開始した日(療養開始日)」に改正されました。既に認定されている方もさかのぼって支給となります。ただし、認定申請日から、3年前の日より前にはさかのぼりませんのでご注意ください。

② 法施行日以降に亡くなった方に特別遺族弔慰金等が支給されます。

平成18年3月27日(法律の施行日)以降に石綿を吸入することにより中皮腫や肺がんにかかり、認定の申請をしないでこれら疾病に起因して亡くなった方のご遺族にも特別遺族弔慰金・特別葬祭料(約300万円)が支給されることとなりました。

③ 特別遺族弔慰金等の請求期限が延長されます。

石綿を吸入することにより中皮腫や肺がんにかかり、平成18年3月26日以前にこれら疾病に起因して亡くなられた方のご遺族に支給される特別遺族弔慰金・特別葬祭料(約300万円)の請求期限が、平成24年3月27日まで延長されることになりました。

詳しくは、

最寄の保健所等または環境再生保全機構 フリーダイヤル ☎0120-389-931 へ、  
または同ホームページ <http://www.erca.go.jp/asbestos/> まで。

※特別遺族給付金の支給対象も拡大されました。詳しくは、最寄の都道府県労働局または労働基準監督署へお問い合わせください。



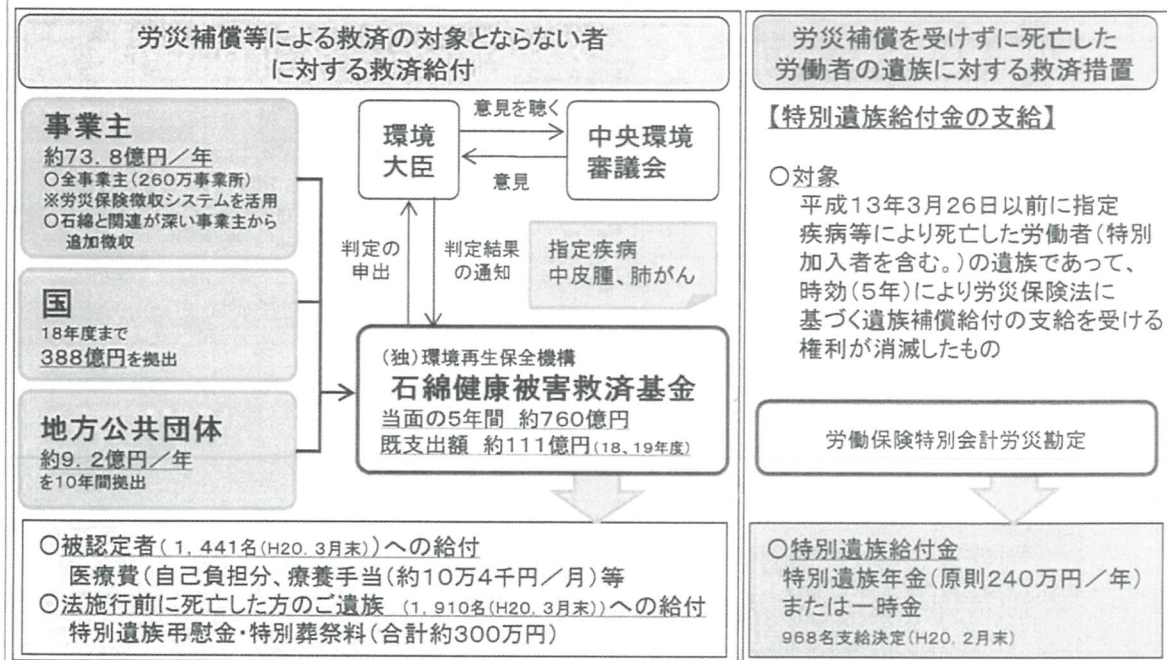
独立行政法人 環境再生保全機構



## 石綿による健康被害の救済に関する法律の概要

## 1. 石綿健康被害救済法の概要

石綿による健康被害の特殊性にかんがみ、石綿による健康被害に係る被害者等の迅速な救済を図る。  
(H18. 3. 27施行)

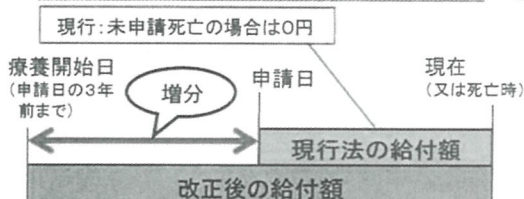


## 2. 改正法H21.12.1~の概要

石綿による疾患の特殊性や「安心して医療を受けていただく」という制度の趣旨から、所要の改正を行った。

## 改正案のポイント1

## ○申請の遅れによる不利益への対応



給付の始期を  
「申請日から」→「療養開始日から」  
(療養開始日が申請日から3年以上前であるときは、3年前の日)

- ・施行後未申請死亡者  
死亡から3年以内の遺族の申請に基づき、被認定者であったものとして救済給付を支給する。
- ・被認定者  
医療費・療養手当を療養開始日にさかのぼって支給する。

## 改正案のポイント2

## ○特別遺族弔慰金等及び特別遺族給付金の請求期限の延長

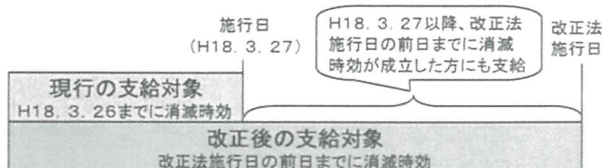
3年延長

→ 「平成21年3月27日(施行日から3年)」 → 「平成24年3月27日(施行日から6年)」まで延長

## 改正案のポイント3

## ○石綿救済法施行以降に労災保険の時効が到来したものの取扱い

⇒ 本改正法施行前に労災保険の遺族補償給付を受ける権利が時効により消滅した遺族にも、特別遺族給付金を支給



## 平成 21 年度 県・市と愛産協との行政懇談会

愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市の環境行政に携わる産業廃棄物担当者と（社）愛知県産業廃棄物協会役員が一堂に集まり、産業廃棄物を取り巻く状況と各行政の取り組み等について話し合う懇談会が、11月20日（金）午後2時30分より名古屋市中区大須のローズコートホテルで開かれ、行政担当者11名、愛産協から会長をはじめ役員20名が出席しました。

懇談会では中谷専務理事の司会ではじまり、最近の廃棄物行政の動向について県、各市の担当者から説明を伺った後、質疑応答、意見交換が行われました。



愛産協 近藤会長

冒頭、近藤会長は挨拶で「本日は大変多忙の中、懇談会に出席していただき誠にありがとうございます。今年はリーマンショックによる世界不況や政権交代、新型インフルエンザといろいろなことがあり、また、新政権による公共事業の大幅な削減など厳しい情勢にありますが適正処理と資源循環型社会構築は我々業界の大きなテーマです。明るい展望に向かって取



愛知県 近藤主幹

り組んで行きたいと思ひます」と来年への展望と新たな決意を述べました。

続いて行政を代表して愛知県資源循環推進課主幹 近藤行弘氏は「本県の環境行政の推進に格別のご理解とご協力をいただき感謝しています。さて、本県も大変厳しい情勢にあり、法人事業税は大幅にダウンし、産業廃棄物処理を図る目安となる産廃の税収は昨年度に比べ7割程度を予測しており、制度がはじまった平成18年度以来最低の税収になる見込みです。懇談会を通してさまざまな諸問題について話し合い、有意義な意見交換の場になればと思います」と述べ、懇談会への期待を述べました。

開会挨拶の後、県・各市の取り組み、協会への要望、新規施策への見通しなどについてお話を伺いました。

最初に県の動向について近藤主幹は「先日、15の



中谷専務理事

|                    |       |       |
|--------------------|-------|-------|
| 愛知県 環境部 資源循環推進課    | 主 幹   | 近藤 行宏 |
|                    | 主 幹   | 三好 信也 |
|                    | 主 幹   | 原田 弥生 |
| 名古屋市環境局 事業部 廃棄物指導課 |       |       |
| 産業廃棄物審査係長          | 水野 次男 |       |
| 産業廃棄物指導係長          | 山際 勝治 |       |
| 豊橋市 環境部 廃棄物対策課     | 課長補佐  | 鈴木 利幸 |
|                    | 課長補佐  | 水藤 祐史 |
| 岡崎市 環境部 廃棄物対策課     | 主 幹   | 深川 勇二 |
|                    | 主 査   | 平岩 靖弘 |
| 豊田市 環境部 廃棄物対策課     | 副主幹   | 武田 雅彦 |
|                    | 副主幹   | 河合 逸人 |

|                 |       |             |
|-----------------|-------|-------------|
| 社団法人 愛知県産業廃棄物協会 |       |             |
| 会 長             | 近藤 成章 | 理 事 石山 進    |
| 副 会 長           | 彦坂 孝明 | 理 事 平沼 辰雄   |
| 副 会 長           | 加山 昌弘 | 理 事 南村 勝己   |
| 専務理事            | 中谷 光孝 | 理 事 黒川 明    |
| 常務理事            | 相木 邦昭 | 理 事 梶田 弘一   |
| 常務理事            | 永井 良一 | 理 事 杉山 徳雄   |
| 理 事             | 堀川 政男 | 理 事 小島 晃    |
| 理 事             | 川根 武  | 理 事 高木 英泰   |
| 理 事             | 武田 英裕 | 理 事 水野 良夫   |
| 理 事             | 新家 義彦 | 青年部会長 加山順一郎 |





都道府県で構成されている産業廃棄物関係の課長会議が開かれ、環境省の方も出席され、それぞれの地域から全部で22題の要望が集まり、環境省へ伝えました。そのうちの3点を紹介しますと、まず1点が収集運搬業の許可制度の簡素化について、2点目は優良化評価制度について、3点目は産廃税についてです。1点目の許可制度の簡素化については現在、環境省でパブリックコメントを実施しており、その結果を中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会で専門の委員会を設置して検討し、平成22年度夏頃の通常国会にかけるとのことです。2点目の優良化については適法性、情報公開、環境保全の取り組みが確認出来れば申請書類等の一部が省略出来ることとなっていますが、それをもっと拡充するといった要望がありました。また、東京都では第三者による評価制度をつくり、事業者の方に、産廃エキスパート、産廃プロフェッショナルの認定バッジを与え、ブランド化したいという案もでました。3点目の産廃税については、平成18年に法定外目的税としてスタートし、排出事業者が負担します。逼迫している最終処分場の新たな設置を促進することと、埋立処分量の減量と3Rの促進を目的にしたものです」と現在の状況について説明がありました。

名古屋市環境局事業部廃棄物指導課産業廃棄物指



名古屋市 山際係長

導係長 山際勝治氏は「6月に名古屋支部の会員の皆さんと不法投棄防止パトロールを実施し、不法投棄事案は年々減ってきています。

名古屋市では昨年度、産廃の実態調査を実施し、そこで得たデータをもとにして平成23年度に今後10年間の産業廃棄物指導計画を策定する予定です」と現在の取り組みの説明がありました。



豊橋市 水藤課長補佐

豊橋市環境部廃棄物対策課課長補佐 水藤祐史氏は「豊橋市では昨年度から監視体制の充実を図り、警察官OBを嘱託員として採用し、今までの2倍以上の立入検

査を行い、非常に効果がありました。来年も監視業務の推進に力を入れて行きたいと思います。また、環境保全の取り組みについては、今年で3回目となる田原市との市境にある汐川干潟のクリーンアップ作戦に東三河支部会員の多数の参加と搬送車両提供の協力もあり大変感謝しています。また、豊橋市では今後10年間を見据えた第二次豊橋市産業廃棄物基本計画の策定を予定しており、そのための実態調

査を実施します」と今後の計画を含めての現状説明がありました。



岡崎市 深川主幹

岡崎市環境部廃棄物対策課主幹 深川勇二氏は「11月に行政担当者会議が岡崎で開かれ、どの自治体も法的な面での判断や基準について微妙に別れる点もあり、

行政側も活発な情報交換を行い、社会情勢に合わせて行く必要があります。廃棄物の該当性の判断についても相談に来る事業者方が増えています」と現状の説明がありました。



豊田市 武田副主幹

豊田市環境部廃棄物対策課副主幹 武田雅彦氏は「先般、東名インターチェンジで警察と連携して産廃車両の検問を実施し、3台の車両を検査しましたが、マニ

フェストを含めて全てOKでした。豊田市では上空からの監視体制に力を入れており、県警のヘリコプターを使って年2回（6月・11月）に実施しています。ヘリには豊田警察署、足助警察署の署長にも搭乗していただき、監視活動の“見せる監視”も実施しています。また、航空写真の解析にも力を入れ、昨年は4,596地点を市職員が立入り調査し、111地点で不適正処理を指導し改善を行いました。さらに民間委託による監視では、平日の夜間（午後7時～午後11時）、日曜・祭日の昼間（午前9時～午後4時）の監視パトロールを実施し、5件の不適正処理の改善指導を行いました。特に夜間や休日にも監視されているという意識が高まり、不適正処理の未然防止に繋がっていると思います。また、年間を前



愛知県 原田主幹

期と後記に分けて立入検査を実施しており、過剰保管を中心に後期は事務所への立入を行い、マニフェストや委託契約書を見せていただき、適正処理がなされているか確認しています」と監視体制の現状について説明がありました。

県・市の担当者から現状の説明があった後、質疑応答が行われ、当協会小島理事から「一般廃棄物、産業廃棄物の扱いに関して各自治体で処理方法に違いがあり、県で統一していただけないか」、永井理事からは「建設現場での事業系一般廃棄物の扱いに関して県と市では見解の違いがあり、我々産廃業者にとって委託契約違反にも繋がる重大な問題です。こうした点をきちんとしてほしい」、平沼理事からは「最近増えている無料回収所について、家電リサイクル法を含めて野放しになっているのはどうか。行政はどんな対策を考えているのか。また、建設残土の定義について何らかのガイドラインがあるのかお教えいただきたい」との行政への質問や要望があり、これらについて愛知県環境部資源循環推進課主幹 原田弥生氏から説明がありました。



小島理事



永井理事



平沼理事



## 産業廃棄物処理業優良化セミナー開催

愛知県環境部と(社)愛知県産業廃棄物協会の共同開催



循環型社会構築の重要な役割を担う産業廃棄物業界のさらなる健全化を目的とした「産業廃棄物処理業優良化セミナー」が愛知県環境部と(社)愛知県産業廃棄物協会の共同開催により、10月26日(木)午前10時から、愛知県自治センター(名古屋市中区)12階会議室で開催されました。

このセミナーは、愛知県知事の許可を得て産業廃棄物処理業を行っている処理業者のうち、主に平成22年1月から2月末までに更新期限を迎える方、及び新たに処理業の許可申請をしようとする方を対象に開かれたもので、当協会会員を含む59名が受講されました。



愛知県環境部 近藤主幹

はじめに愛知県環境部資源循環推進課主幹 近藤行宏氏、当協会中谷専務理事が開会の挨拶をされたあと講義に入りました。

最初に「産業廃棄物処理業の健全な発展について」中谷専務理事から産廃業界の健全化のためには排出事業者が適正な処理費を負担することが基本になることであり、排出事業者責任がもっと明確にされるべきであることが強調されました。

中谷専務理事

また、民主党政権に変わり、廃棄物政策はどう変わるのかという点について、民主党がホームページで公表している政策の一部(総

合的な廃棄物・リサイクル対策、不法投棄事案対策)を紹介し、さらに世界へ向けて国際公約したCO<sub>2</sub>25%削減についても、具体的な方法はどうか、どんな技術があるのか、産廃業界にどんな影響があるのかなどに注目していく必要があるとの説明がありました。

また、一般に向けて実施した夏休み親子で環境資源・リサイクル体験ツアーの成果など、健全化に向けた協会の取り組みについて説明がありました。

続いて、愛知県環境部資源循環推進課主任 飯田



愛知県環境部 飯田主任

豊司氏から「産業廃棄物処理業の許可申請にあたっての留意事項について」説明があり、特に収集運搬業の許可申請書と添付書類について、自動車破碎物や石綿含有産業廃棄物の記載で「含む」かどうか正確に記入する

こと、廃棄物の種類は法令に基づく種類を正式に記入すること、講習会の修了証はどうか、運搬車輛の写真は、ナンバープレートの表示はわかるか、保管計画表の記入はどうか、住所・社名は登記簿の記載と同じか、役員は欠格要件に該当していないかなど記入の仕方や注意事項について詳しい説明がありました。

必要な書類は早めに準備し、余裕を持って行ってください。また、書類の書き方で分らない点は事前に県環境部や県民事務所へ相談してほしいとのアドバイスがありました。

最後に愛知県環境部資源循環推進課 石垣雄大氏



愛知県環境部 石垣氏

から「産業廃棄物処理業者の優良性評価制度について」制度の概要、評価基準、メリット、随時受付の実施、愛知県の優良性評価の特色(次頁掲載)などについて現況の説明がありました。

## [産業廃棄物処理業者の優良性評価制度について]

### 1 制度の概要

○平成17年4月1日付け環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長通知を受け、愛知県では、平成17年度から、産業廃棄物処理業者の優良性評価制度を実施している。審査にあたっては、「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度事務取扱要領」や環境省発行の「産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度の解説」に基づき適否を判断している。

○優良性評価制度の申請は、産業廃棄物処理業の許可申請（新規・変更・更新）時に併せて行うこととしてきたが、平成21年度からは許可申請を伴わない優良性評価のみの審査申請の随時受付を認めている。

### 2 優良性の評価基準

次の（1）～（3）の全ての条件をクリアしていること。

- （1）産業廃棄物処理業の許可を受け5年以上業を行っており、5年以上不利益処分を受けていないこと。
- （2）5年以上インターネットで情報公開しており、定められた頻度で内容を更新していること。  
（経過措置…H18.4.1以前から情報公開していること。）
- （3）ISO14001、エコアクション21等の認証を取得していること。

### 3 優良性の評価を受けるメリット

- （1）処理業の許可（新規・更新・変更）申請時に一部の申請書類の省略ができる。
- （2）優良性の評価を受ける際の提出書類（インターネットの画面打ち出し）の一部を省略できる。
- （3）許可証に記載され、環境省・各自治体等のホームページで公表されるため、営業上のメリットが期待できる。

### 4 本県での優良性評価事務の改正（随時受付の実施）について

平成21年4月1日から次の事項について実施している。

- （1）処理業の許可申請を伴わない優良性の審査申請を認める。
- （2）優良性の審査申請に係る書類の様式を定めた。

<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sigen-ka/haiki/osirase/yuuryo-handan/index.html>

### 5 本県での優良性評価事務の特色について

- （1）他の自治体で優良性適合の判断を受けていても、本県での処理業の許可を5年以上受けていなければ許可（新規・変更）申請時の書類の省略は認めない。
- （2）優良性の審査に係るインターネット画面のプリントについて、他の自治体で優良性適合の判断を受けていれば、その時点以前のプリントの省略を認める。
- （3）優良性の審査申請に虚偽があった場合、環境省へ報告するとともに、優良性の評価リストから削除し、許可証の書換をする。
- （4）優良性の評価後、業務停止等の行政処分を受けた場合、優良性に不適合となるため、上記（3）と同様に環境省へ報告するとともに、優良性の評価リストから削除し、許可証の書換をする。

### 6 その他

名古屋市始め県内4政令市も随時申請方式を実施している。



## NEWS

(社)愛産協主催

## 「環境リスクコミュニケーションセミナー」開催

事例や演習も交えて実践の手順を勉強

円滑な企業活動を行う上で、地域社会との共生は大切です。また、環境リスクが増加している中、それへの対応がますます重要になっています。協会は11月17日(火)午後1時30分より名古屋市中区のローズコートホテルで今年度2回目となる「環境リスクコミュニケーションセミナー」を開催しました。

同セミナーは、産業廃棄物業界が地域住民の信頼・理解を得るためには、環境リスクとどう向き合っていくべきか、リスクコミュニケーションを進めるための体制や実践手順などを学ぶために行われたものです。

当日は、経営者や現場責任者、実務担当者ら会員58名が参加、受講しました。中谷専務理事の挨拶のあと、はじめに当協会の大家事務局長が「地域社会と共生していくための業界の課題」と題して講演があり、化学物質を取り扱う際の法律、PRTR制度、廃棄物データシート(WDS)等について解説がありました。また、臭いや音、不安感といったものには個人差があることや、地域住民の安心、安全に应运っていくためには普段から工場、施設の情報公開、環境報告書などで「見える化」の取り組みが大切と述べ、リスクコミュニケーションについて概要を説明しました。



大家事務局長

(株)環境情報コミュニケーションズ社長 大歳幸男氏は「社会の目線を意識した環境コミュニケーション」をテーマに廃棄物に含まれている化学物質の有害性について、化学物質のハザート(危険要因)とリスク(危害)を解説し、事業者が行う環境対策が“独りよがり”にならないため、地域住民をはじめ



(株)環境コミュニケーションズ 大歳氏



としたあらゆる利害関係者とのコミュニケーションが必要だと強調されました。また、コミュニケーションを円滑に進めるためには、ファシリテーター(進行役)の役割や専門家(人材)、会議のルール、傾聴のスキルなど技術的な知識が必要であることを説明しました。

説明のあと、5～6名のグループに分かれ、地下水汚染、航空会社の預け手荷物管理者、個人経営スーパー店長、工場の管理部長など、それぞれの立場に立ってグループ演習を行い、リスクコミュニケーションを実践しました。



(株)日報アイ・ビー 渋谷氏

最後に(株)日報アイ・ビー環境事業部編集係長 渋谷和義氏は「産廃業界におけるリスクコミュニケーションの取り組みの実際」と題して書籍「今まできけなかった処理業者のリスクコミュニケーション事例集」の作成に携わった経験を踏まえ、処理企業の生の声を交えつつ事例紹介を行い、リスクコミュニケーションの大切さを強調されました。



グループ演習でリスクコミュニケーションの実践をする参加者

## 愛知県表彰条例により 近藤成章会長が環境功労者表彰を受賞

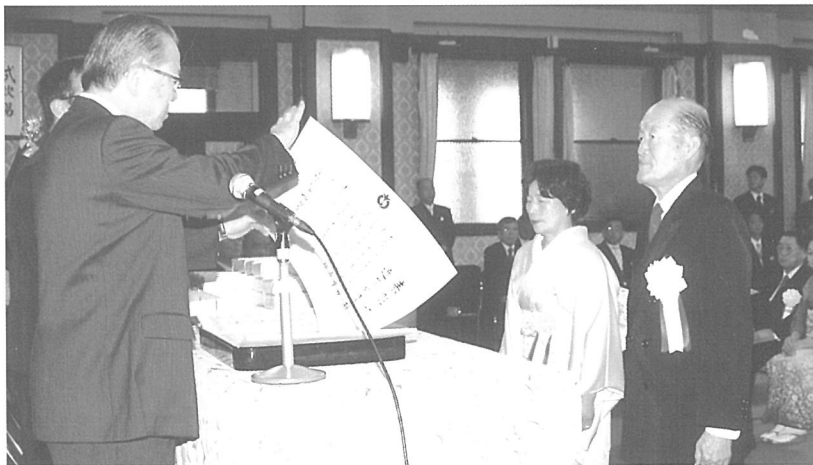
県の地方自治や社会活動、環境、社会福祉、保険医療、産業、教育文化、公共安全などで多年にわたり、尽力され、貢献された個人や団体を県条例により表彰する第61回愛知県表彰式が11月24日(火)午前10時より愛知県本庁舎講堂で行われました。

式典には、それぞれの分野で功績にあった44名の方と公共安全に尽力された3団体が、愛知県 神田真秋知事から受賞者ひとりひとりに直接表彰状が授与されました。

当協会近藤成章会長は、(社)愛知県産業廃棄物協会会長、(社)全国産業廃棄物連合会副会長として多年にわたり産業廃棄物処理業関連団体の要職にあつて、産業廃棄物の適正処理の推進に尽力し、環境保全に貢献したことにより、環境功労者として表彰されました。

式典は吉川伸二県議会議長、県議会議員、県職員らの列席の下で厳粛に行われ、受賞者は黒の礼服用姿で、多数の方がご夫婦で出席されていました。

神田知事、吉川県議会議長の感謝の辞の後、受賞



愛知県本庁舎講堂にて、神田知事より表彰状を授与される近藤会長



者全員は本庁舎の前で知事を中心に記念撮影し受賞を祝いました。



神田知事(左)近藤会長と奥様



県本庁舎前で受賞者全員による記念写真

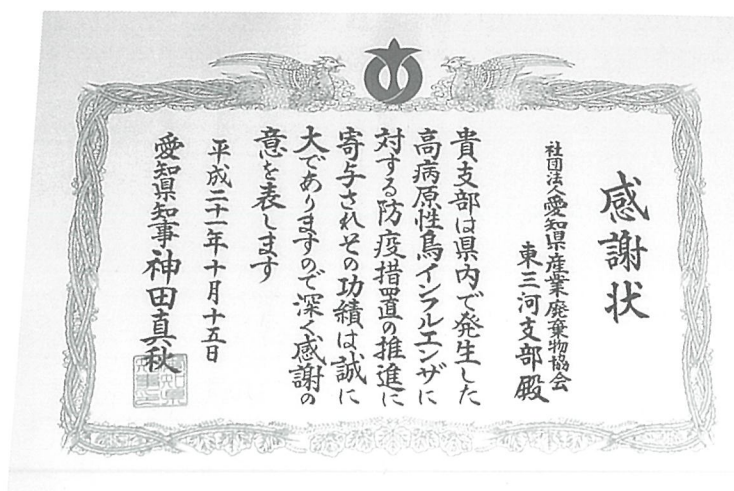


# NEWS

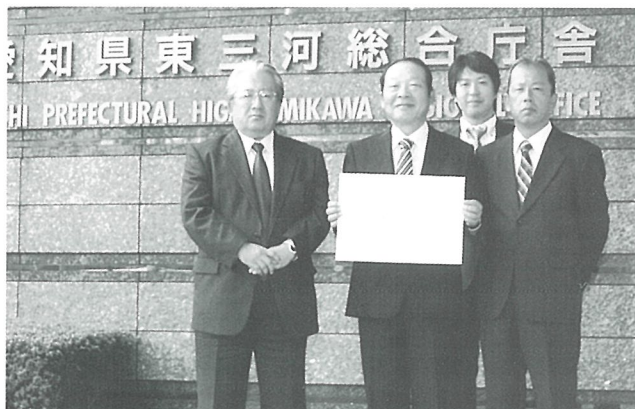
## 高病原性鳥インフルエンザ防疫作業への協力に対し 東三河支部が愛知県知事感謝状を受賞

東三河支部（小島 晃支部長）は、平成21年3月に発生し、5月11日に終息宣言をした豊橋市の養鶏（ようじゅん）農場で起こった高病原性鳥インフルエンザの防疫作業への協力に対し、愛知県知事感謝状が10月15日（木）午前10時より愛知県東三河総合庁舎で開催された、第2回愛知のうずら再生会議の席上で授与されました。

会議には国や県、近隣の市町の行政関係者、うずら農家、うずらふ化業者の代表者、流通・加工業者、畜産関係団体など82名が参加し、愛知県副知事 稲垣隆司氏から当協会東三河支部ら3団体に知事感謝状が授与され、会場からたくさんの拍手が贈られました。この模様はテレビや新聞により報道されました。



稲垣副知事より感謝状を授与される小島支部長



感謝状を授与された東三河支部の皆さん



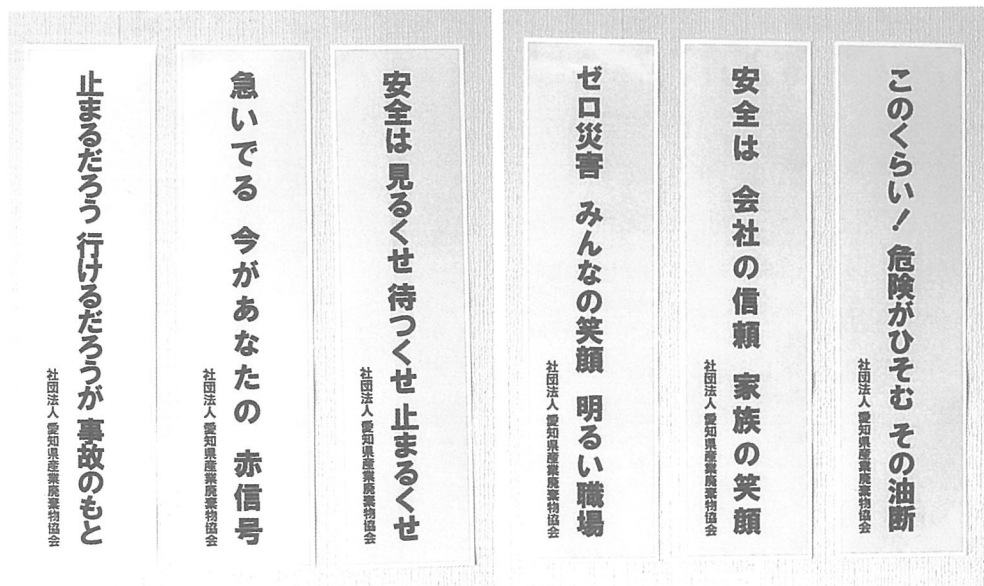
愛知のうずら再生会議の席上で授与式がありました。

# NEWS

第5回安全衛生委員会で決定

## 安全標語優秀作品6点を決定

全392作品のご応募ありがとうございました。



加山安全衛生委員長

安全衛生委員会(加山昌弘委員長)では、会員の安全意識の更なる向上を図るため、去る7月28日付で全会員に対し、「安全標語」の募集を行いましたところ、多数の方にご応募(42社/196名/

392作品)頂きました。

同委員会では10月14日(水)に選考会議を開催し、優秀作品の絞り込を行い、最終的に評価の高かった30作品の中から更に優秀作品6点を選考致しました。優秀作品6点については、それぞれ短冊状のポスターを作成し、全会員に配布いたしました。同委員会では、事務所や工場等に安全標語を掲示して頂き、職場の安全の高揚に役立てて頂きたいと考えております。



他社の搬入車両にも分るように安全衛生標語を工場入口の事務所受付に掲示

### [収集運搬部門]

- ・安全は見るくせ 待つくせ 止まるくせ  
渡邊孝幸/(株)ミダック
- ・急いでる 今があなたの 赤信号  
森 克郎/鹿島道路(株)
- ・止まるだろう 行けるだろうが 事故のもと  
斎藤 実/(株)ミダック

### [処理部門]

- ・ゼロ災害 みんなの笑顔 明るい職場  
平沼辰雄/(株)リバイブ
- ・安全は 会社の信頼 家族の笑顔  
大平達矢/三和興産(株)
- ・このくらい! 危険がひそむ その油断  
村田充弘/誠美社工業(株)





## 「新入社員安全衛生教育・研修」開催

安全衛生委員会（加山昌弘委員長）は、協会の職場における安全意識のさらなる向上を図るため、12月22日（火）午後1時30分より愛知県勤労会館において、中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンターの専門役 尾野吉則氏を講師に招いて「新入社員安全衛生教育・研修」を開催しました。研修会には協会各社から新入社員や入社1～2年の社員の方など37名が参加しました。

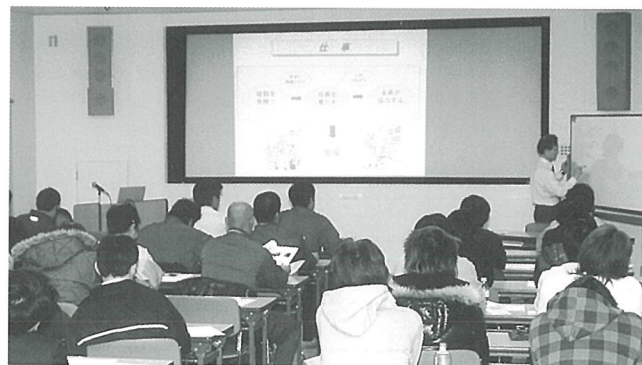
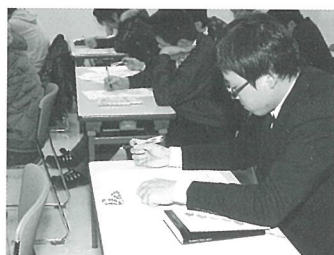


開講挨拶をする  
加山委員長

開講挨拶で加山委員長は「協会の中で安全衛生委員会を立ち上げた一人として皆さんに強く申し上げたいことがあります。この業界は、年間を通してけがや死亡事故などの労働災害が非常に多いということです。先日

も全国から産廃の安全衛生委員が100名近く集まり、厚生労働省の方も入って会議が開かれました。その中で、厚生労働省の方から産廃業界の労働災害の実態を説明され、死亡災害の多さには本当に驚きました。愛知県はそれほどでもありませんが、今まで無かったからこれからは無いということはありません。特に若い人、いわゆる新入社員の方の労働災害が多いのも事実です。不馴れとか、人の話をきちんと聞かないで作業にあたるとか、これぐらいは簡単だといった初歩的なミスが非常に多いのも特徴です。そういったことを念頭に置いて、本日の研修に臨んでいただき、健康で明るい職場づくりに役立ててください」と、挨拶されました。

研修（Ⅰ）では、まずはじめに全員でエラーパターン診断テストを行い、自分の性格が



講師の尾野専門役

行動型か、記憶型かといった性格判断を行った上で、人間はミスをするものといった原点にかえて、職場とは、仕事とは、家庭と職場の関係は、仕事と安全のつながりは、事故はどうして起きるのかといった安全衛生

の基本を勉強しました。

研修（Ⅱ）では、安全ルールを守るという点から、正しい服装、作業内容に対する心得、保護具、通行、整理整頓の大切さを勉強し、労働災害の基礎を学ぶという点から、正しい作業行動、作業の基本、作業手順書の確認、事故が起きた時の対応、心と体の健康づくり等について勉強しました。

研修の合間には3本のビデオをはさみ、復習を繰り返しながら安全意識の基本をしっかりと身につけていく研修でした。研修の最後には全員で立って、指差し呼称を実践して終了し、中谷専務理事の閉講挨拶の後、ひとりひとりに修了証が手渡されました。





## 「第8回 産業廃棄物と環境を考える全国大会」 が開催されました



平成21年11月6日(金)、徳島市のホテルクレメント徳島において、(社)全国産業廃棄物連合会、(財)日本産業廃棄物処理振興センター、(財)産業廃棄物処理事業振興財団の3団体の主催により、「循環型社会と環境ビジネスの展望」をテーマに、第8回の「産業廃棄物と環境を考える全国大会」が開催されました。

今年の大会には、全国から約450名、愛産協からは近藤成章会長、中谷光孝専務理事が参加しました。



大会は(社)全国産業廃棄物連合会 國中賢吉会長の開会挨拶により幕を開け、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 谷津龍太郎部長と徳島県の飯泉嘉門知事からの来賓挨拶の後、環境大臣表彰式典が行われ、各県協会からの推薦者11名と中央推薦の3名の計14名の功労者に対して、産業廃棄物関係事業功労者として、谷津部長から環境大臣表彰状が伝達されました。

引き続き、「廃棄物処理法の見直しについて」と題して、中央環境審議会委員などをされている弁護士佐藤泉氏から、現在検討が進められている廃棄物処理法の見直しの状況とそれに対する評価などを内容とする基調講演が行われました。この講演の中で、佐藤弁護士は、廃棄物処理法のこれまでの沿革

から説き起こし、今後展開の予想される分散型社会の中で効率の良い廃棄物処理の市場作りが求められていることを踏まえて廃棄物処理法の見直しを評価すべきであるとの基本的な視点の下、排出事業者責任の強化、処理業の許可制度の合理化、施設許可の規制、不法投棄対策、業許可の簡素化など、現在見直しの行われている法改正の内容について説明されました。

この後に行われたパネル討論会は「循環型社会と環境ビジネスの展望」をテーマに、徳島大学工学部水口裕之教授をコーディネーターとして、行政関係からは環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課 坂川 勉課長、徳島県住民環境部環境総局 豊井泰雄局長、排出事業者からは王子製紙(株)環境経営本部環境経営部 湯浅正信主幹、処理業を代表して(社)愛媛県産業廃棄物協会 真鍋光義会長の各氏が参加して行われ、産業廃棄物処理業を新たな視点から見直し、環境ビジネスの担い手としての新たな役割を担っていく上での取り組みの方向について、意見交換が行われました。

閉会後に同じ会場で行われた交流会は、全国に知られた阿波踊りが披露されるなど、地元徳島県協会を始め、四国4県の皆さんの心づくしのもてなしのおかげで、大いに盛り上がりました。

来年の大会は富山県で開催されます。



環境省 谷津部長と阿波踊りに興じる近藤会長



## NEWS

## びわ湖環境ビジネスメッセ、大阪府エコタウンの2つの施設を見学。文化と芸術にも触れた2日間

10月21日(水)・22日(木)の2日間、研修指導委員会(小島 晃委員長)主催の施設見学会が会員37名の参加で行われ、滋賀県長浜ドームで開かれている“びわ湖環境ビジネスメッセ”と大阪府エコタウンにある2つの中間処理施設を見学する施設見学会が行われました。

参加者は午前8時30分に中京大学文化市民会館前に集合し、観光バスで最初の見学場所、琵琶湖のほとりにある長浜ドームに向かいました。

長浜ドームで開かれている“びわ湖環境ビジネスメッセ”は、滋賀県経済産業協会、滋賀県経済団体連合会などで構成する滋賀県環境ビジネスメッセ実行委員会が主催し、経済産業省、環境省が後援の国内最大級の環境産業総合見本市です。広いドーム内には305の企業、団体による494小間のブースが出展し、環境負荷低減に役立つ環境製品や技術、サービスなどが紹介されていました。また、このイベントの特徴として、近隣県の主要大学の出展ブースが数多くあり、産学連携によるさまざまな研究成



びわ湖環境ビジネスメッセ



果や実験結果が紹介されたほか、展示会場とは別に、環境ビジネスや環境問題に関するさまざまなセミナーも同時開催されていました。

参加者は会場に入り、それぞれ興味のある展示コーナーを探し、説明を聞きながら約1時間30分程自由に見学しました。

午後は再びバスに戻って湖岸道路を走り、国宝の天守閣を持つ彦根城を見学しました。彦根城は井伊直弼の居城としても知られ、260年間一度も国替えや城攻めもなく、三十五万石の気高い雄姿を誇り、まさに天下の名城で、石段を踏みしめ天守閣まで昇りました。



彦根城

滋賀県立琵琶湖博物館では琵琶湖の歴史や人物とのかかわりをさまざまな展示品やアトラクションで紹介され、湖を中心に人、物、情報が交流



滋賀県立琵琶湖博物館

し、成長してきた様子が良く分りました。

見学の後、宿の雄琴温泉に着き、夜の懇親会では胸襟を開いて話し合い、彦坂副会長の司会で抽選会も行われ、大いに盛り上がりました。

翌日は朝9時にホテルを出発し、午前中は滋賀県大津市にある三井寺を見学。伝説の弁慶の引き摺り鐘、観音堂、釈迦堂など広い境内を散策し、井筒八橋工場で買い物を



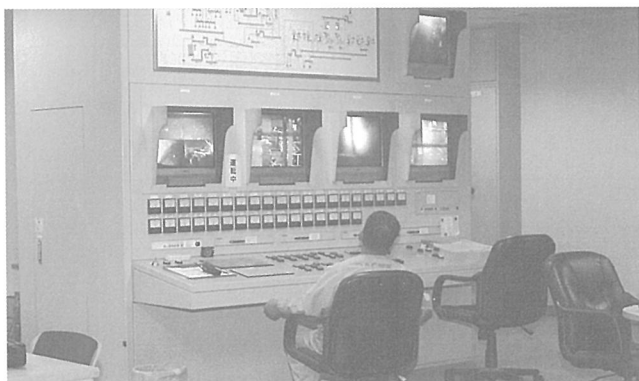
三井寺

を楽しみ、大阪府エコタウン（大阪府堺市）の（株）RAC関西の見学に向かいました。

（株）RAC関西は建設・解体系や工場系の混合廃棄物を受け入れ、ヤード選別、手選別、破碎、機械選別などさまざまな方法で選別、破碎し、圧縮・梱包・成形等を経てリサイクル燃料・原料等を製造し、エコタウン内の他のリサイクル施設に高品質なりサイクル原料を供給する事業を行っています。同社では所長から会社の説明とこの後見学する関西再資源ネットワークの説明をビデオで紹介され、八木工場長の案内で高度選別工程や集中制御室の様子を見学し、高品質



（株）RAC関西の  
國中社長



工場の説明、案内をする  
八木工場長

なりサイクル原料を製造するさまざまな設備を拝見しました。

次に見学した（株）関西再資源ネットワークは食品リサイクル法に基づいて食品循環資源の再生利用を目的に建設された施設で、産業廃棄物のみならず一般

廃棄物も受け入れています。同社では食品系、木質系バイオマスを炭化・液化、分留することにより、

廃棄バイオマスを再資源化し、エネルギー利用や農畜産業を中心とした利活用を推進しています。仲取締役の案内で搬入された食品廃棄物のストックヤードやバイオマス設備の一部を見せていただき、処理方法、工程などについて説明を受けました。



（株）関西再資源ネット  
ワーク 仲取締役

見学を終えて、阪和道、名神を経由して金山に戻り散会しました。





# NEWS



## 親睦と交流の大きな輪 親睦ゴルフ大会・ボウリング大会が開催されました



スポーツを通して協会員の親睦と交流を図る福利厚生委員会（相木邦昭委員長）主催の恒例事業「第17回親睦ゴルフ大会」が11月5日（木）、「第18回親睦ボウリング大会」が11月20日（金）に2会場において開催されました。今年も大勢の会員が参加して盛大に行われました。



### 【第17回 親睦ゴルフ大会】

11月15日（木）第17回 親睦ゴルフ大会がオールドレイクゴルフ倶楽部（春日井市西尾町）で会員53名14組がエントリーして開催されました。

参加者は順次受付を済ませた後、スタートホール横の練習グリーンで、パットのタッチや芝の感じを入念にチェックするなど軽いウォーミングアップをしてスタートに備えていました。



相木氏の開会挨拶

全員が集めたところでオールドコーススタートホール前でセレモニーが行われ、相木委員長の開会挨拶の後、事務局有馬氏より競技方法やルールの説明があり、オールドコース、レイクコースそれぞれに分かれてスタートしました。

当日の天気は秋晴れ。暖かくて風はなくゴルフには最高のコンディションでした。

競技はダブルペリア方式で行われ、優勝はネット70.8で八木生義さん／（有）橋本商店、準優勝はネッ

ト71.4で竹内良一さん／名環サービス（株）、ベスグロ賞はグロス78の宮崎秀夫さん／王春工業（株）でした。

今回の賞品はいつものスポーツ用品に変わり、松茸、柿、みかん、りんごなど秋の味覚が満載で大変好評でした。



加山副会長からトロフィーと副賞の松茸を受取る優勝の八木さん（左）



準優勝の竹内さん



3位の鬼頭さん



ベスグロ賞の宮崎さん

#### 上位成績表

| 順位  | 氏名〔会社名〕              | グロス | HDGP | ネット  |
|-----|----------------------|-----|------|------|
| 優勝  | 八木 生義<br>〔有〕橋本商店     | 78  | 7.2  | 70.8 |
| 準優勝 | 竹内 良一<br>〔名環サービス（株）〕 | 81  | 9.6  | 71.4 |
| 3位  | 鬼頭 秀幸<br>〔有〕リサイクル産業  | 80  | 7.2  | 72.8 |
| 4位  | 石川 信夫<br>〔有〕アイミ      | 85  | 12.0 | 73.0 |
| 5位  | 宮崎 秀夫<br>〔王春工業（株）〕   | 78  | 4.8  | 73.2 |



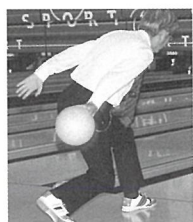


## 【第18回 親睦ボウリング大会】

### ■名古屋会場



相木委員長の開会挨拶



中谷氏による始球式

名古屋支部、尾張西支部、尾張北支部、尾張南支部の会員各社から114名が参加して、11月20日(金)午後6時からブランズウィックスポルト(名古屋市中区)で第18回 親睦ボウリング大会が開催されました。

参加者の大半が従業員の皆さんで、今年は女性の参加者も多く見られ、お子さん連れの参加もあり、福利厚生事業ならではの楽しく賑やかな雰囲気でした。

相木委員長の挨拶の後、中谷専務理事の始球式でゲームがスタートしました。競技は3ゲーム総合得点で順位を競い、女性には1ゲーム毎+10点、5年以内の優勝者にはゲーム毎に-10点のハンディキャップをつけて行われ、優勝は西川徐雄さん/大天工業(株)、準優勝は西川光子さ



金田尾張南支部長よりトロフィーを受取る優勝の西川さん(右)



準優勝の西川さん

ん/大天工業(株)で、ご夫婦によるワンツーフィニッシュでした。

#### 上位成績表

| 順位  | 氏名 [会社名]                | HDCCP | トータル |
|-----|-------------------------|-------|------|
| 優勝  | 西川 徐雄<br>[大天工業(株)]      | -30   | 589  |
| 準優勝 | 西川 光子<br>[大天工業(株)]      | -30   | 549  |
| 3位  | 安田 忠夫<br>[岩間造園(株)]      | 0     | 548  |
| 4位  | 武田 政治<br>[メディカルサポート(株)] | 0     | 539  |
| 5位  | 小谷 雄二<br>[(有)小谷商事]      | 0     | 530  |

### ■三河会場

西三河支部、東三河支部の会員各社から57名が参加して、11月20日(金)午後6時から豊川エースボウル(豊川市正岡町)で開催されました。

参加者は仕事を終わって各自、仲間同士で車で駆けつけ、受付を済ませてシューズを履き替え、スタートを待ちました。

福利厚生委員の莊司敏彦氏の挨拶があり、事務局の有馬氏からルール説明の後、莊司氏により始球式が行われて見事ス



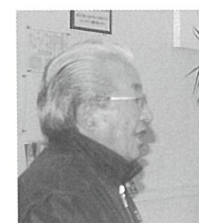
莊司氏の開会挨拶と始球式



イク。エースボウルからインスタントラーメン1ケースが贈られ、賞品に追加されました。競技は名古屋会場と同じルールで行われ、各レーンで歓声やハイタッチで盛り上がっていました。

終了後に近くのレストランで食事と表彰が行われました。東三河副支部長の長崎正敏氏が挨拶し、表彰式

が行われ、優勝は林 稔久さん/(株)クリエイト創美社、準優勝は高橋 剛さん/(株)マルサワでした。



長崎氏による講評



優勝の林さん



準優勝の高橋さん

#### 上位成績表

| 順位  | 氏名 [会社名]              | HDCCP | トータル |
|-----|-----------------------|-------|------|
| 優勝  | 林 稔久<br>[(株)クリエイト創美社] | 0     | 551  |
| 準優勝 | 高橋 剛<br>[(株)マルサワ]     | 0     | 508  |
| 3位  | 江端 崇<br>[(株)明輝クリーナー]  | 0     | 507  |
| 4位  | 山本 晃市<br>[柴田興業(株)]    | 0     | 481  |
| 5位  | 鈴木 淑之<br>[岡田建設(株)]    | 0     | 476  |



## NEWS

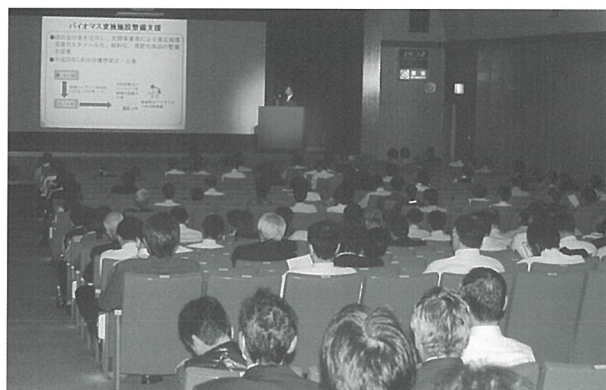
## 食品リサイクル講習会報告

10月27日(火) 午後2時より伏見ライフプラザ 鯉城ホール(名古屋市中区)において平成13年に施行されて8年が経過し、平成19年12月に改正された「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)」の周知

と食品廃棄物の再生利用等を促進するための講習会が名古屋市環境局主催により開催されました。当日は食品関連業者、産業廃棄物処理業者の方が多数出席していました。

開会にあたり名古屋市環境局ごみ減量部資源化推進室主幹(生ごみ資源化) 村田吉隆氏が挨拶し、名古屋市が取り組んでいる生ごみを飼料や肥料にリサイクルし、食品を生産し、循環させるバイオマスタウン構想について説明がありました。その後、第1部「食品資源循環の再生利用等の促進に関する政策動向」と題して農林水産省東海農政局生産経営流通部食品課課長補佐 落合和彦氏により講演が行われました。

落合氏からは食品リサイクル法の概要として  
**<目的>** 食品の売れ残りや食べ残しにより、または食品の製造の過程において発生する食品廃棄物について、  
 ①発生抑制と減量化により最終処分量の減少を図る。  
 ②資源として飼料や肥料等に再生利用または熱回収するため、食品関連事業者による再生利用等の取組を促進する。



名古屋市 村田主幹



農水省 落合課長補佐

**<責務>** 全ての食品関連業者に再生利用等の実施義務があること。再生利用等の手法と優先順位として、①発生抑制 ②再生利用 ③熱回収 ④減量(乾燥、脱水、発酵等)があること。平成24年度までの再生利用等業種別実施率目標、個々の

食品関連事業者の再生利用等実施率目標が設定されていること。取り組みが不十分な場合は罰則があること。また、食品廃棄物多量排出事業者(100トン以上)には、発生量と再生利用等の状況について毎年6月末日までに前年度分の報告義務が課せられたことなどが説明されました。

第2部「先進事例紹介」では「名古屋マリオットアソシアホテルの取り組み」について(株)ジェイアール東海ホテルズ 吉川知孝氏より ①ごみの分別徹底 ②従業員の教育・知識向上 ③食材の有効利用といった取組みについて説明がありました。

続いて名古屋市内の生ごみ資源化施設紹介として、生ごみをクローズド式(生ごみの臭気や汚水を工場外へ出さない)コンポスト化により肥料にするバイオプラザなごやについて運営会社の(株)熊本清掃社常務取締役村平光士郎氏より説明があり、食品残さ等の飼料化に取り組んでいる中部有機リサイクル(株)取締役社長 前川 覚氏より現状と取り組みの説明がありました。

ジェイアール東海  
ホテルズ 吉川氏

熊本清掃社 村平氏

中部有機リサイクル  
前川氏



# NEWS

一歩踏み出す！CSR

## 企業とNPOの環境活動セミナー報告

県では平成21年に名古屋で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に向けて、企業とNPO、地域との協働による事業を促進し、開催地にふさわしい地域づくりに繋げていこうと、10月26日（月）午後3時から、名古屋国際会議場（名古屋市中熱田区）会議室において、「企業とNPOの環境活動セミナー」が開催され、企業関係者ら約200名が参加しました。

会議は主催者挨拶の後、第1部では（株）デンソー経営企画部CSR指導室長でNPO法人パートナーシップ・サポートセンター理事 岩原明彦氏による「企業とNPOの協働から生まれるもの」のテーマで基調講演が行われました。



基調講演を行う岩原氏

続いてNPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム、リコー中部（株）、（株）愛研&NPO法人

心豊かにARD会の3団体の代表から、企業とNPOの協働環境活動の事例発表がありました。

第2部では、3つのテーマ（①生物多様性保全 ②水環境の保全 ③資源環境・その他）に分かれて協働ワークショップが設けられ、それぞれに専門のアドバイザーの方がいて、協働事業へのきっかけとなる相談やアドバイスなど情報の提供を行っていました。



## バーゼル法等説明会報告

10月27日（火）午後2時から、名古屋国際会議場（名古屋市中熱田区）4号館会議室において、環境省と経済産業省が共同で「バーゼル法等説明会」が開催され、企業の担当者ら約250名が参加しました。



説明会では、環境省中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課課長 小野寺秀明氏が開催挨拶を述べた

後、同課 曾山第一係長がバーゼル条約、バーゼル法及び廃棄物処理法の概要について、規制対象物（有害廃棄物）の範囲や規制対象となるか否かについて商品事例を上げて説明がありました。

続いて、経済産業省産業技術環境局環境指導室阿由葉越境移動管理官が、輸出入にあたっての必要な手続きについて、手続きの流れ、申請手続書類の書き方、手続上の必要書類、留意点について説明がありました。





## NEWS

## 平成 21 年度 安全なまちづくり愛知県民大会



神田愛知県知事

“安全と安心のまちづくり”をスローガンに掲げた「平成 21 年度 安全なまちづくり愛知県民大会」が 10 月 14 日（水）午後 1 時 30 分から名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）センチュリーホールで開催されました。

会場には県内各地域から、安全な町づくり、暴力追放、防犯に取り組む大勢の関係者が集まり満員になりました。

第 1 部では、愛知県知事 神田真秋氏、愛知県警察本部長 神山憲一氏の挨拶があり、感謝状の

贈呈では、安全なまちづくり、暴力追放、防犯に多大な功績のあった個人、団体の方に神田愛知

県知事より感謝状が贈呈されました。その後全員で大会宣言文を読み上げ、最後に振り込み詐欺で急増している“警察官を騙る詐欺”について、防犯活動専門チーム「のぞみ」による防犯寸劇が披露されました。

第 2 部では、山口晃二氏による津軽三味線と愛知県警察運楽隊によるミニコンサートがありました。



愛知県警 神山本部長

## 平成 21 年度 ごみゼロ社会推進あいち県民大会

10 月 27 日（火）午後 1 時 30 分から名古屋市中区の中区役所ホールで平成 21 年度ごみゼロ社会推進あいち県民大会（主催／ごみゼロ社会推進あいち県民会議、後援／環境省中部地方環境事務所）が開催されました。



式典では 130 団体で構成するごみゼロ社会推進あいち県民会議副議長で愛知県女性団体連盟会長 加藤愛子氏による主催者挨拶、環境省中部地方環境事務所所長 市原信男氏による来賓挨拶の後、レジ袋削減取組優良店 80 店舗の表彰式が行われました。

休憩をはさんで、環境カウンセラーで 3R 推進マ

イスター 崎田裕子氏による“進めよう！身近なりサイクル”と題した講演が行われました。崎田氏は生活者の視点に立って、持続可能な社会づくりを中心に講演や執筆活動をされ、中央環境審議会委員として活躍されています。

講演では、地域循環圏づくりに大切な連携、協働についてさまざまな事例をもとに分りやすく説明したり、資源回収と家庭ごみ有料化の効果、レジ袋削減取組の状況など身近なりサイクルについてお話をされました。

講演後にはミニコンサートや昭和保育園児によるエコキッズリサイクルショーなどのアトラクションがありました。また、会場入口では使用済携帯電話の回収受付コーナーも設置されていました。



環境省 市原所長

環境カウンセラー  
崎田氏

県民会議 加藤副議長



## NEWS

## 森林資源を工業に生かす新産業創出のための 交流会議「循環ビジネス創出会議」報告

愛知県で、新たな循環ビジネス！をテーマに、森林資源を工業に生かす新産業創出のための交流会議「循環ビジネス創出会議」が12月21日（月）午後1時30分から名古屋駅前の愛知県産業労働センター“ウインクあいち”で開催され、講演やパネルディスカッションが行われ、新産業の創出に取り組む企業の担当者ら200名が出席しました。

会議は運営委員の小島氏／（株）明輝クリーナーの司会で行われ、工業デザインの専門家や森林資源の活用に関心のある企業を招き、森林資源を活用する新たな製品の開発や、普及のためのヒントやアイデアを探るための講演やディスカッションが行われました。



司会の小島氏



発等に関わった名古屋市立大学大学院教授 國本桂史氏による「木材を活用した新たな需要開拓のあり

方について」と題して講演がありました。



講演する國本氏

続くパネルディスカッションでは、國本氏をコーディネーターに、4名のパネリスト（寺澤勇氏／三菱自動車工業（株）、市橋人士氏／（有）山口工芸、村松幹彦氏／愛知県森林組合連合会、笠木和雄氏／持続性木質資源工業技術研究会）により、それぞれの取り組みについて説明や、新たな商品開発のあり方などについて意見交換が行われました。



会場後方には12の企業が森林資源に意欲的な取り組みを紹介する展示ブースが設けられ、当協会のフルハシEPO（株）の間伐材を使い、CO<sub>2</sub>とコスト削減の取り組みから生まれた“グリーンパレット”が紹介されていました。

### 夏休み「親子で環境・資源 リサイクル体験ツアー」に 参加された方の作品紹介

前号（循環あいち73号）の発行後に協会に届いた作品です。8月12日尾張コース（（株）リバイブの産業廃棄物中間処理施設と愛知県下水道科学館・ビオトープを見学）に参加された中川周子さん（5年生）の作品です。





## NEWS

## あいち地球温暖化防止戦略 あいち新世紀自動車環境戦略 推進大会報告



地球温暖化防止に県民、事業所を上げて取り組む「あいち地球温暖化防止戦略、あいち新世紀自動車環境戦略 推進大会」が12月11日(金)午後1時30分から名古屋市東区東新町の中電ホールで、環境問題に取り組む事業者など約430名が出席して開催されました。



神田愛知県知事

はじめに主催者を代表して愛知県知事 神田真秋氏は「地球温暖化問題は、いまデンマークのコペンハーゲンでC O P 1 5が開催され、世界の国々から政府関係者、N P O、環境団体などさまざまな方が一堂に会して議論が繰り返されています。なかでも先進国と発展途上国との意見の対立は深刻で、激しい議論が展開されています。今回のC O P 1 5は1997年の京都議定書後の枠組みをどうするのか、将来に関わる大切な問題が話し合われています。本県ではこうした問題に以前から取り組み、あいち新世紀自動車環境戦略では、全国に先駆けて進めたエコカーの普及台数は全国で1位です。また、地球温暖化防止戦略では、住宅用太陽光発電についても全国1位の普及です。これも県民や事業所の皆さんの協力による成果です。また、来年2010年、生物多様性条約締約国会議(C O P 1 0)が名古屋で開催されます。世界190ヵ国以上の国や団体、グループの方が一堂

に集まり、生物多様性を考え、どのように保全をし、守っていくのか。また、それを人間の社会活動とどう共生させていくのか。激論が予想されます。県ではキャラバンを行って、PRに努めています」と述べ、県民に支援と参加を呼び掛けました。



吉川愛知県議会議長

続いて愛知県議会議長吉川伸二氏は県議会を代表して「デンマークのコペンハーゲンで行われている気候変動枠組第15回締約国会議では、連日激しい折衝が続いているようです。日本では京都議定書の1990年比で温室効果ガス排出量6%削減目標を掲げて取り組んできたところですが、政府は新たな目標として、2020年度までに25%削減するという方針を掲げました。県議会ではこうしたことを踏まえ、脱温暖化への先進的、先導的な取り組みを支援し、新たな時代に対応した持続可能な社会の実現に向けて全力で取り組んでいきます」と挨拶を述べました。

続いて行われた授与式では、エコカーの導入や今後普及が期待される電気自動車の充電設備の一般への開放などの施策に積極的に取り組んだ

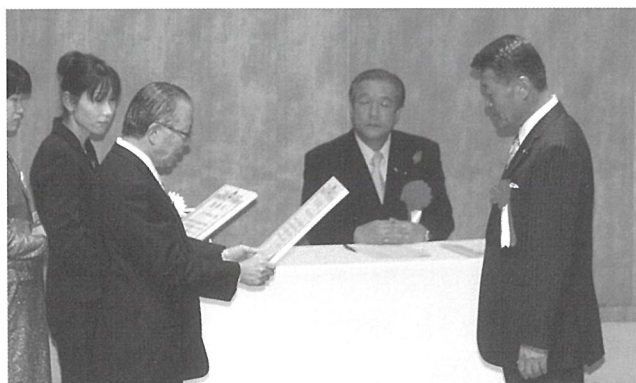
(1)平成21年度「自動車エコ事業所認定証」が9社13事業所に。C O 2削減にさまざまな施策で取り組んだ(2)平成21年度「C O 2排出削減マニフェスト登録証」が20社の事業所に授与され、当協会の(株)リバイブ、(株)フルハシ環境総合研究所の2社が評価され、神田知事より登録証を授与されました。

(株)リバイブは、

- ・環境活動レポートの作成(年1回)
- ・太陽光発電・風力発電などソフトエネルギー(グリーン電力)の設置及び普及促進
- ・ハイブリッド車の活用による燃料削減、車両点検の徹底、エコドライブの促進(化石燃料使用量年

間3%削減)

- ・産業廃棄物処理現場での一次選別（木材など再資源可能物）の徹底（最終処分量2%削減）
  - ・環境機器（屋上緑化・壁面緑化）の開発・利用
- など11の施策の取り組みに対して評価されました。



神田知事より登録証を授与される（株）リバイブの平沼社長

（株）フルハシ環境総合研究所は、

- ・エコポイント活動である企業の社員に向けたエコモチベーションアッププロジェクト（エコモチ）の実施・普及拡大（実施企業100社）
- ・子どもを対象とした環境学習の実施など、企業の環境コミュニケーションの支援（100回）
- ・全社用車に低公害車を導入
- ・社内や家庭でのエコドライブの徹底
- ・社内や家庭での緑化の促進

など10の施策の取り組みに対して評価されました。



神田知事より登録証を授与される（株）フルハシ環境総合研究所の船橋社長



講演する中村氏

次に行われた講演会では、読売新聞の論説委員として環境問題や科学技術を幅広く取材され、産業技術審議会、中央公害対策審議会などを歴任し、現在は科学ジャーナリスト、エッセイストとして活躍の中村政雄氏による「21世紀の地球環境とエネルギーを考える」と題して、CO<sub>2</sub>25%削減とは工場で2割、マイカーで5割、オフィスや家庭で5割を減らすということのお話や、資源の油田やガスは毎年6.3%下がり、新しい油田はほとんど発掘されてないことや、また、石炭の需要は上がるが、反対にCO<sub>2</sub>は増えるといった話や、今後は、風力と原子力が見直されて、車でいえば燃料電池や電気自動車の時代が来るといった将来の産業のあり方について講演されました。



講演する大聖氏

早稲田大学大学院創造理工学部研究科教授 大聖泰弘氏は「エコカー技術に関する将来展望」と題して、エンジンの低公害化や高効率化の研究、電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車の制作や自動車の環境・エネルギーとモビリティに関する研究を通して得たデータをもとに運輸部門における環境対策のためのアプローチの重要性や各国の乗用車のCO<sub>2</sub>排出係数、今後の電気自動車の発展など電気自動車とガソリン車の比較をさまざまなデータをもとに、CO<sub>2</sub>削減のひとつの方向をお話しになりました。



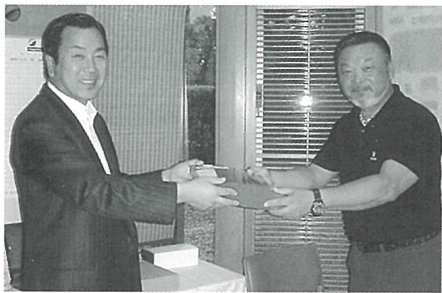
## 名古屋支部

### 親睦ゴルフ大会開催



名古屋支部（永井良一支部長）では、10月22日（木）会員16名の参加の下で、ナガシマカントリークラブ（三重県いなべ市）において第8回親睦ゴルフ大会が行われ、親睦と交流がはかられました。

競技は秋晴れのベストコンディションのもと、ダブルペリア方式で、南コースからスタートして、西コースの18ホールで行われました。優勝はネット73.4で新美三良さん／（有）三洋サービス、準優勝はネット76で永井弘児さん／永一産商（株）でした。また、西コース4番で八木生義さん／（有）橋本商店がホールインワンを達成しました。



永井支部長より祝福を受ける優勝の新美さん

#### 上位成績表

| 順位  | 氏名〔会社名〕              | グロス | HDCP | ネット  |
|-----|----------------------|-----|------|------|
| 優勝  | 新美 三良<br>〔有〕三洋サービス   | 95  | 21.6 | 73.4 |
| 準優勝 | 永井 弘児<br>〔永一産商（株）〕   | 100 | 24.0 | 76   |
| 3位  | 世森 幸<br>〔有〕ジェイアールナゴヤ | 85  | 7.2  | 77.8 |

## 尾張西支部

### 支部内6地区で ブロック懇談会開催

尾張西支部（新家義彦支部長）では支部会員の意見を幅広く取り入れ、支部事業の活性化に繋げるため、地区ブロック懇談会が9月9日（水）から19日（土）の間で6地区それぞれで開かれました。

懇談会で話し合われた内容や意見は支部長に報告され、役員会で検討されました。

報告された事柄は次の内容です。

- （1）産業廃棄物収集運搬業者の営業ナンバー（緑ナンバー）取得に関する情報について
- （2）有価物の今後の価格動向
  - ①金属（鉄）：25円（1kg当り）前後から多少上昇傾向  
中国の動向により変化する
  - ②銅：需要が見込める
  - ③プラスチック：3割位（安い）戻りが悪い
- （3）地区ボウリング大会を開催してみてもどうか
- （4）他支部との合同ゴルフ大会を開催してみてもどうか
- （5）今後の不法投棄防止パトロールのあり方
- （6）地区ブロック懇談会の盛り上げ方、昼間ではなく夜に開いてはどうか

### 大勢の会員参加で盛り上げる 忘年会

尾張西支部は12月8日（火）午後7時より名古屋駅前の舞鶴館で支部長ら会員63名が出席して、忘年会が行われました。

富田昭雄委員の司会ではじまり、新家支部長、中谷専務理事の挨拶の後、堀川政男委員の音頭で乾杯



が行われ、宴会がはじまりました。今年は今までになく多くの会員が参加し、それぞれ積極的に名刺交換をされたり、会社や仕事の内容を紹介したり、膝を突き合わせて業界の動向を話し合ったりするなど、会場のあちこちで親睦と交流を深めている様子がうかがえて最高に盛り上がりました。



新家支部長



宴会では隣に座った方や、離れた所へ名刺を持って立ち回るなど、自社や自己PRを行うなど親睦・交流が積極的に行われました。

## 尾張北支部

### マジックショーを楽しんで 親睦を深めた忘年会



尾張北支部(竹内良一支部長)は12月11日(金)午後6時30分から名駅南のマリエカリヨン名古屋で、会員37名が参加して忘年会が開かれました。



竹内支部長

忘年会は竹内支部長、中谷専務理事の挨拶の後、河合邦史委員の乾杯の音頭で始まり、会場は音楽と壁一面にニューヨークの夜景が映し出され、ロマンチックでお洒落な雰囲気に包まれてひとときが過ぎていきました。

アトラクションではマジックショーがあり、テーブルが空中浮遊するマジックでは、中谷専務理事もステージに上がって、マジックに参加するなど“驚きと不思議”に会場は拍手に包まれました。

ステージマジックの後は、マジシャンが各テーブルを廻り、会員の目の前でトランプマジックを披露するなど、心を和ませてくれました。





## 西三河支部

### 青森県下有数の建設系中間処理施設を施設見学

西三河支部（梅村正裕支部長）では11月6日（金）・7日（土）の2日間、青森市大字野沢にある大矢建設工業（株）（大矢 進社長）を訪ねて、建設系産業廃棄物の中間処理施設を見学、併せて東北、青森の美しく雄大な大自然に触れた1泊2日の施設見学会が行われました。



参加者16名は早朝7時に中部国際空港国内線付近に集合し、青森へ出発しました。

青森空港では（社）青森県産業廃棄物協会専務理事 山本俊行氏の出迎えを受け、チャーターしたバスに乗り込み、約1時間程で大矢建設工業に到着しました。

到着後、会議室で大矢社長から、同社の施設全体が分る1/250の縮尺図を見ながら、3万坪に及ぶ広大な敷地内の処理プラント群を指し示して、処理の方法や能力等の概要の説明を受けました。同敷地内には、がれき類の破碎施設、木くずの再資源化を行う破碎施設、焼却施設、選別施設、廃プラスチック類・金属くずの切断



梅村支部長

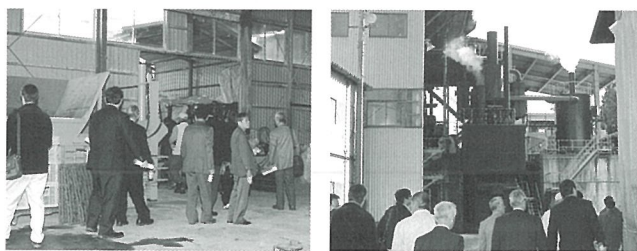


大矢社長

施設、汚泥の造粒固化施設、廃プラスチック類・紙くずの破碎・圧縮施設の処理プラントが点在し、県下有数の規模と設備を誇る工場です。

社長の案内で処理プラントをひとつひとつ見学して、説明を受けました。

現状について社長は「不況の影響で土木工事も解体工事も少なくなりました。公共工事も激減し、廃棄物が入ってこない状態が続いています。現在は4割程度の仕事量です。来年の見通しは全くありません」と厳しい状況を語ってくれました。



施設見学後、三内丸山遺跡の縄文時遊館で昼食を交えた懇親会が行われ、青森県県土整備部道路課副参事木村正雄氏から、平安京から今日までの東北、青森の成立について歴史や由来など楽しい講義がありました。また、山本専務理事からは会員数をはじめと



山本専務理事

する協会の概要や、青森岩手県境で発生した不法投棄事案の経緯について説明がありました。

午後からは三内丸山遺跡、青森県立美術館でシャガールの絵画を鑑賞してホテルへ。

翌日は早朝ホテルを出発し、東北三大祭のひとつ“ねぶたの里”を見物し、八甲田ロープウェイで頂上に行き、眼下に広がるブナの原生林や八甲田連峰の雄大なパノラマを満喫しました。午後には十和田湖子の口から14km、200mの高低差を流れる溪流“奥入瀬溪流”に入り三乱の流れ、阿修羅の流れ、など千変万化の美しさを堪能、心が癒されました。十和田湖では湖上遊覧を楽しんで再びバスで青森空港へ行き、中部国際空港へ戻りました。



## 東三河支部

### 3年間続いて 「汐川干潟クリーンアップ大作戦 (主催／530 運動環境協議会)」に協力



東三河支部(小島 晃支部長)は、豊橋市やNPOなど市民団体で構成された530運動環境協議会の依頼を受けて、今年も昨年、一昨年に続いて11月15日(日)豊橋市と田原市の市境にまたがる汐川干潟のクリーンアップ大作戦に参加しました。

地域社会の環境保全活動は支部事業として大切な活動であり、従来の不法投棄物撤去作業のような不法投棄物の事案が減ってきたことや、東三河支部が530運動環境協議会の会員であることから、協力依頼に応えたものです。

作業には、地元住民や周辺企業のボランティアでつくる「汐川を美しくする実行委員会」、豊橋市の530運動環境協議会をはじめ、豊橋市職員ら合わ



拾い集めたごみは明輝クリーナーの収集運搬車で資源化センターへ搬入

せて300人が集まり、東三河支部からは支部長ら会員20名が参加しました。

参加者は午前8時に汐川干潟に接した豊橋市杉山町福住排水機場堤防に長靴、ジャンパー姿で、干潟に入っても大丈夫な準備をして集合し、軍手とビニール袋が支給され、堤防を乗り越えて潮の引いた干潟へ入り、ごみを拾い集めました。

岸の方ではペットボトル、空缶、空瓶、廃タイヤ、発泡スチロールの箱、家電製品等が、沖の方ではビニール製の縄の束や、網、ポリバケツ、プラスチック製の箱、カラーコーン、車のバンパー等、ほとんどが生活雑貨や一般廃棄物のごみでした。

拾い集めたごみは岸に上げて、明輝クリーナーが提供協力した2トンユニックの収集運搬車に入れて豊橋市資源化センターに運び、清掃活動は終了しました。



堤防を乗り越えて干潟に入り、全員でごみ拾い



## 「With Love～やんちゃ和尚のスキルアップセミナー～」



廣中和尚は大きく手を振り、声を上げて会場入りし、壇上に上がるなり全員を起立させて深呼吸をさせ、“右向け右”の号令で全員が右を向き、前の人の肩に手を伸ばして肩をもみ、今度は“回れ右”の合図で“ありがとう”の声をかけて反対の方の肩もみを行いました。和尚独得のパフォーマンスで全員の緊張感がほぐれ、会場は和やかな

青年部会（加山順一郎会長）の11月全体会議が12月10日（木）午後3時から56名が参加して、名古屋市中区錦のラグナスイートで、西居院住職の廣中邦充氏を講師に招いて「With Love～やんちゃ和尚のスキルアップセミナー～」と題して講演会が開催されました。



加山青年部会長

開催にあたり加山会長は「今回は一人でも多くの方にお話を聞いていただきたいの思いから、青年部会員以外にも会員各社に声をかけて、多数の方に参加していただき、何かひとつでも身になるものを得て、会社や家庭に戻って役立ててもらいたい」と挨拶を述べました。

廣中和尚は非行や家出、不登校や引きこもりなど、色々な問題を持った少年少女の駆け込み寺としてマスコミなどで取り上げられ、通称「やんちゃ和尚」として有名です。一流企業や中小企業の安全大会や社員教育などでも数多く講演され、全国を飛び回って活躍されています。

雰囲気になり講演が行われました。

講演で和尚は、これまでにあったさまざまな相談で、問題解決にあたった出来事、離婚調停の最中に従業員の方がビルから転落死し、会社も家庭も大変だった社長さんのケースや、夫からのDVや虐待で妻が傷つき子どもが登校拒否になり、全国で初めて裁判で勝訴したケースや、従業員の子どもの、長い間引きこもりで助けて欲しいと社長さんが土下座をして頼んできたケースや、16歳でヤクザになり、20歳の時に直談判の末に組抜けさせ、目標を与えてとびの職人として朝5時から夜10時まで働き、通信高校に通い、マイカーを現金で買うまでに更生



した青年のケースなど、和尚自らが体ごとぶつかり、  
当人の身になって辛抱強く問題解決にあたる、和尚  
のパワーとエネルギーを感じました。また、問題解  
決に向き合う中で、本当のリーダーシップとは何か、  
会社や家庭、地域社会の中の思いやり、温もりとは  
何か、若者の“創造と挑戦”の足りなさはどこから  
来るのか。また、「名鉄電車の初代社長は従業員の  
奥さんに“ご主人を朝、気持ちよくいってらっしゃ  
いと送りだしてください”と毎日ハガキを送ってい  
たそうです」というエピソードなど、参加者はリー  
ダーシップとは何かやスキルアップのヒントを講演  
を聞いて感じ取ったと思います。

また、和尚は「私は他社の社員教育などで常々5  
S（整理、整頓、清潔、清掃、躰）の中でも躰の大  
切さを強くいっています。工場や倉庫がきれいに清

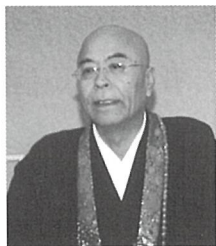


掃されていても、運搬車両の運転席や助手席はどう  
か、机の引き出しの中はどうか、こうしたことが自  
然にできることが躰です。後継者育成に一番求めら  
れることはこの躰だと思います」と語られました。

講演後、同施設で廣中和尚も加わって懇談会が開  
かれました。



### ● 廣中邦充氏プロフィール



1950年に愛知県岡崎市真福  
寺で西居院住職の次男として生  
まれ、少年時代は今でいうヤン  
キーのはしりで、地元ではかな  
りのワルであった。更正して猛  
勉強の末、大正大学に入学。卒  
業後はソニーに入社し営業部に

配属され、1年足らずで営業成績全国1位になる。そ  
の後、会社をやめて名古屋に戻り青年実業家として活

躍した。1990年に浄土宗西居院住職を継ぎ、1  
997年頃からボランティアで問題児を寺に預かり  
更正させる活動をはじめ、これまでに600名以上  
の問題を解決し、現在に至る。通称「岡崎のやんち  
ゃ和尚」として有名。

#### ■ 著書

「こどもは悪くない！道に迷った子供たちとやんちゃ  
和尚の心の交流」

「やんちゃ和尚？399人の不良少年少女を更正させ  
た熱血坊主」





## CO<sub>2</sub> マイナスプロジェクト推進 電動バイクキャラバン隊、栄のセントラルパークを走る!

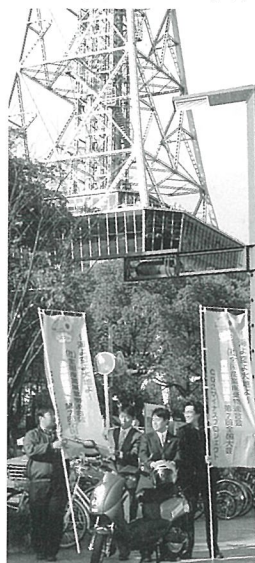


### ●産廃業界を挙げてCO<sub>2</sub>排出削減

後継者育成と業界全体のスキルアップを目指す(社)全国産業廃棄物連合会 青年部協議会(加藤宣行会長)は、各地区の青年部協議会が連携して、CO<sub>2</sub>排出量削減に取り組む「CO<sub>2</sub> マイナスプロジェクト」をスタートさせました。(詳細はHP参照)

このプロジェクトは、上部組織である全産連が平成19年11月に策定した「環境自主行動計画」の一環として推進するもので、CO<sub>2</sub>排出量削減の積極的な取り組みを国や一般市民にアピールし、業界を挙げて地球温暖化防止に貢献していくものです。

そのキャンペーンで愛知県担当の当協会青年部会員の電動バイクキャラバン隊が12月14日(月)当協会を訪問、報告をした後、栄のセントラルパークまで走りアピールしました。



### 【CO<sub>2</sub> マイナスプロジェクト】

#### ■概要

全産連正会員の会員企業各社がエントリーし、削減効果がある具体的手法を会員が選択(複数可)してCO<sub>2</sub>の削減を目指します。CO<sub>2</sub>削減量を競うのではなく、本企画に参加する率が高い地区や、CO<sub>2</sub>削減のための優良事業を評価致します。

新規設備を建築した場合には稼働することにより削減できるであろう見込み量を、削減量として加算し、設備変更の場合には旧設備との差を削減量として加算致します。

#### ■エントリー方法

##### ・エントリー期間

2009年9月末から2010年3月末日

##### ・測定対象期間

2007年11月(全産連環境自主行動企画策定月)から2010年9月末日までに実施された事業

##### ・エントリー方法

ホームページのサイトよりエントリーしてください。

#### ■算定ツール

削減方法、算定ツールは全産連HPに掲載されているものを利用し、各社自己申告制とします。

<http://www.zensanpairen.or.jp/federation/02/03/index.html>

#### ■表彰

CO<sub>2</sub> マイナスプロジェクトの成果は、平成22年11月23日に横浜市で開催される第7回(社)全産連青年部全国大会で、エントリー率部門、優良取り組み部門、エコアイデア部門、生活部門、共同削減部門の表彰が行われます。

CO<sub>2</sub> マイナスプロジェクト ホームページ  
<http://www.co2-project.jp/>





# 廃棄物の経済学

監修／工学博士 大西 忠一

廃棄物の価値は自由経済の下では、需要と供給の関係で決まりますが、廃棄物の場合は少し様子が異なり、供給量は価格の面だけではなく廃棄物処理やリサイクルの必要性など社会的要素の部分も多く、需要との関係も希薄です。今回はそういった廃棄物の経済学についてご説明します。

## ●廃棄物の経済学

残念ながら廃棄物は無くならないとすれば、後は如何に適正に処理するかです。捨てるもの、経済価値を持たないもの、そのままでは利用できないものが廃棄物（waste）です。日本の場合、法的には逆有償（排出者がお金を払うこと：運搬費等込み）でやりとりされるものが廃棄物で、まだ利用価値のあるもの、処理して有価となったもの、すでに相当規模で事業的に利用されているものは循環資源といって、有価資源に区分されています（実際に有価かどうかは別）。この関係は図8.3のように表すことができます。ある品物の市場における価値はA点から始まり、時間が経つほど次第に価値を減じ、E点で全く評価されなくなり、以後は存在そのものがじゃまということになります。一方、その品物に対する個人（世間）の評価はB点から始まり（A点より高いか低いかは別）、

D点で評価がゼロになります。すなわち、多くの場合、競合製品や新製品等の登場で、モノとしての品物の価値低下よりも速く興味が失われて評価されなくなるのです。したがって、誰も欲しがらないD点以降で廃棄物が発生することになります。D—E間は、「モノ」としての価値はまだあるのですから、その「モノ」は循環資源です。なお、E点以降では誰も価値を認めないので、処分するには処分

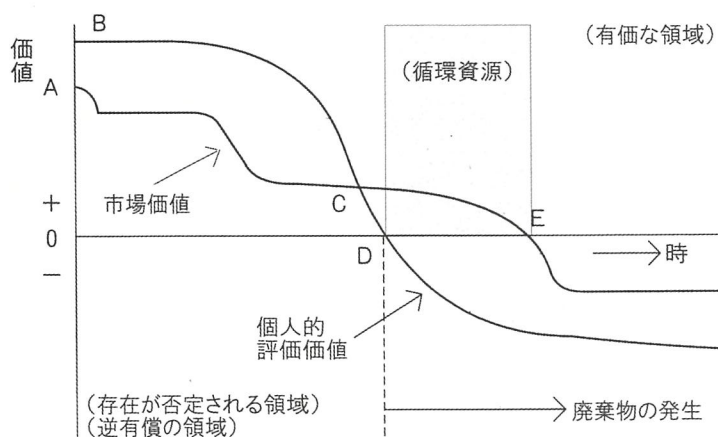


図8.3 商品の市場価値と個人的評価価値の時間経過による変化。ともに時間経過により低下するが、個人的評価の方が速くなくなる。個人的評価がなくなった時点で廃棄物となる。ものの価値がまだある間は資源価値が残っている。（田中：廃棄物学入門、(1993)：一部加筆）



費を払う必要があります。D点以降でも欲しがる人の数が少なければ、余りはやはり同じです。これが逆有償です。

ところで、廃棄物の価値は自由経済社会の下では経済学の基礎である需要と供給の関係で決まります。仮に潜在的な需要が十分にあるとすると、その関係は図8.4のようです。価格が高ければ需要は少なく、価格が下がると需要は増えます（需要カーブD）。一方、供給カーブ（S）は逆で、価格が上がると売りたい人が増えるので量が増えます。ただし、廃棄物の場合は少し様子が異なり、供給量は価格だけで決まっているのではなく、むしろ、廃棄物処理やリサイクルの必要性、あるいは、ボランティア等を含む回収活動の活性度といった社会的要素で決まる部分が多く、価格依存性は比較的小さく、かつ、需要との関係も希薄なのです。したがって、廃棄量が増えると価格が下がり、需給バランスで決まる価格で必要量だけが取引されるということになります。

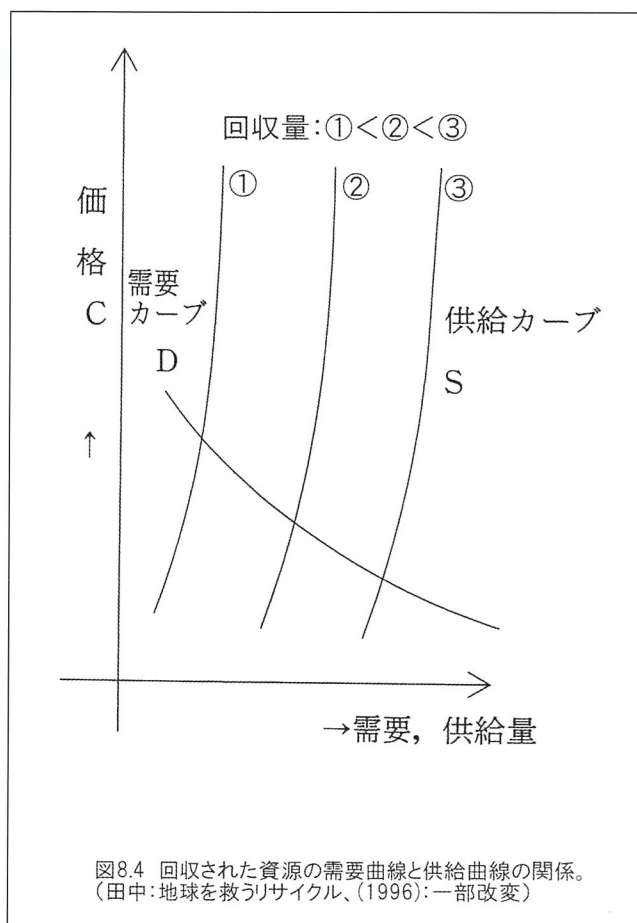


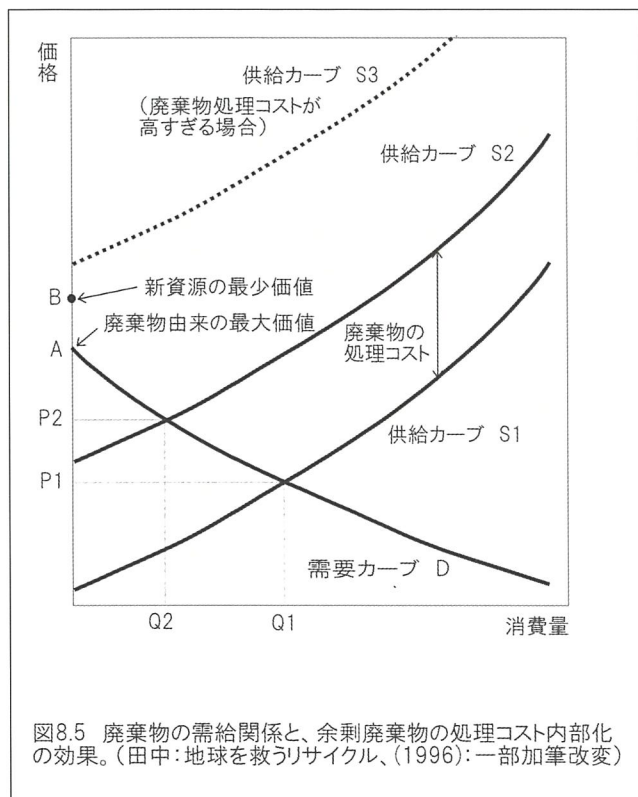
図8.4 回収された資源の需要曲線と供給曲線の関係。  
(田中:地球を救うリサイクル、(1996):一部改変)

ここで少し問題が生じます。供給量が少なければ図8.4のようにある価格でほぼ全量が取引されるでしょう（供給不足による価格上昇を含めて）。しかし、供給量が多いと、価格が下がる上に余剰がでることになります（図8.4の両曲線の交点以上の部分）。この部分についての処理費用は誰かが負担しなければなりません。図8.4にはそれが入っていません。廃棄物の適正な処理は社会的な要請であって、経済学だけで決まってよいものではありません。そこで、最終的な処分費用を考慮した価値体系を構築することが重要になります。

図8.5に、余剰廃棄物の処理コストを供給カーブに上乗せした場合の関係を示します。上乗せすると供給カーブはS1からS2に上がります。すると価格はP2に上昇し、需要量はQ2に減ります。すなわち、最終処分費用を考慮に入れると（これを内部化するといいます）、自己負担となる可能性を持つ余剰部分が増えることになります。したがって、自由経済社会では余剰を減らそうとする努力が働き、廃棄物の発生抑制に有効に作用するのです。内部化することの大きな意義の第一はここにあります。

もう一つ、図8.5のような関係を考慮することの意味は、廃棄物の適正処理コストの検討にあります。価格は需給バランスにより決まるといっても、無制限に変動するわけではありません。廃棄物価格の上限は新しい資源の価格より下であるはずで、ゆえに、内部化した供給カーブが上に行き過ぎ（S3）、需要カーブと交点を持たなくなれば、需給関係で決まるという経済システムそのものが成り立たなくなるのです。これは、発生した廃棄物にたとえ何らかの価値や利用用途があるとしても、その受け手が全くなくなり、大きな環境負荷を与えつつ資源が無駄に捨てられ、経費負担だけが後に残されることを意味します。そこで大切なのが適正な処理コストです。

廃棄物処理の最低限の目的は環境に負荷を与えないことです。環境に負荷を与えるリスクの大きさと、リスクを減らすために必要な処理コスト、および、リスクが発生してしまったときのコスト（たとえば原状回復コスト）との関係を見ると図8.5)のよう

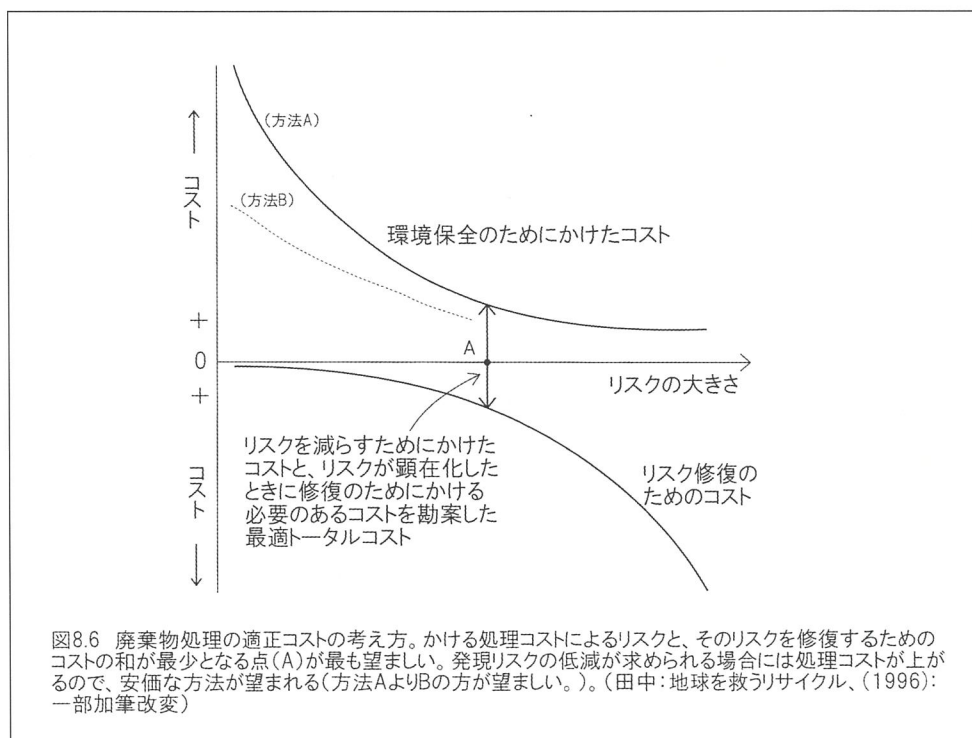


になります。環境負荷リスクを減らそうとすればするほど、当然ながら処理コストは上がってきます。一方、どれほどの予防対策を講じてもリスクはゼロにはならず、リスクが表面化した場合にそれを修復・回復するための費用はリスクが大きいほど大きくなります。したがって、全体として最も効率的なコスト負担は図8.6の両曲線の間隔が最も狭くなることです。自由経済社会においては、極めて大雑把にいうと、コストはかかる労力、資源、エネルギーに比例しています。コストがかかるとは、それだけ多くの資源やエネルギーが必要なことで、環境負荷も大きくなるのです。コストの低減は環境負荷リスクの軽減

減にも大きな意味を持っているのです。この点からも、A点での処理が最も望ましく、A点が適正処理の適正コストになります。

ここでまた、大きな問題があります。過去においてA点での処理が実行され、発生したリスクをその都度修復してきたのならそれで十分ですが、自然の環境容量は無限にも等しく、リスクは自然が勝手に修復してくれるものと勝手に信じ、予防コストの削減にのみ努力を傾注してきたのが実態です。その結果が今の環境問題として顕在化してきているのです。したがって、現在では環境負荷リスクをA点よりも大きく減らし、環境保全を第一に考える必要があるのです。この場合、リスク削減コストは大きく上昇することになります。リスク削減コストが上昇した結果、図8.5のS3のように需給曲線が交差しなくなることになれば、やはりシステムが成り立たなくなります。同じリスクに対して、できるだけ経済的(安い)な処理方法を工夫する必要があります。

廃棄物処理に当たっては、余剰廃棄物の処理コストも含めた経済的関係を熟慮し、環境負荷リスクをできるだけ小さくしてなお、経済システムの成り立つような処理方法を採用することが重要です。





# 企業訪問 循環型最前線レポート

(株) 吉田商会

## グリーンポイントシステム導入で エコユーザーの育成と 自動車リサイクル部品の 新たな需要を喚起

(株) 吉田商会



代表取締役社長／吉田 廣喜

■所在地／豊橋市下地町字新道29番地 ■創業／昭和56年  
■資本金／1,000万円 ■事業内容／自動車のリサイクル  
部品の生産及び販売、自動車の解体 ■取得許可／産業廃棄物  
収集運搬：愛知県・岡崎市・豊橋市（廃油・廃プラスチック類・  
金属くず・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず）

### 地球温暖化防止へ新しい取り組み

産業廃棄物処理の積替保管（豊橋市）の許可を取得し、自動車解体を専門に手掛け、廃自動車から中古部品を抜き取り、リサイクル部品の製造・販売で着実に業績を伸ばしている（株）吉田商会（本社／豊橋市下地町新道29・吉田廣喜社長）を訪ね、環境負荷低減の新しい取り組み“グリーンポイントシステム”導入について、吉田社長と取締役の吉田恭平氏にお話しをお伺いしました。



CO<sub>2</sub>削減の「見える化」を語る吉田社長（右）と吉田取締役（左）

同社への取材は二度目で、以前は自動車リサイクル法施行で追風になり、本社・工場を移転拡張し、経営基盤が強化され、静脈産業化へ大きく踏み出した様子を紹介しました。今回は、今さまざまな業態、業種で進められている地球温暖化防止の取り組みの中で、リサイクル部品業界の環境負荷低減の新しい挑戦“グリーンポイントシステム”の流れを取材しました。

### CO<sub>2</sub>削減の「見える化」を実現

#### ーグリーンポイントシステムー

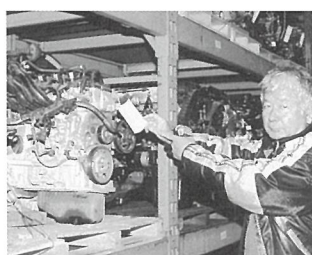
グリーンポイントシステムは、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会（JAPRA）と早稲田大学環境総合研究センターの共同研究で開発されたもので、自動車リサイクル部品によるCO<sub>2</sub>削減効果を換算、数値化し、データベースとして構築したも

の。自動車の新品部品の製造時に排出されるCO<sub>2</sub>の排出量と、中古車から部品を取り外してリサイクルした場合の排出量を比較し、その差をCO<sub>2</sub>削減量として数値化します。また、廃自動車についても1台毎の再資源化率をリサイクル部品のCO<sub>2</sub>削減量の総合値で数値化します。

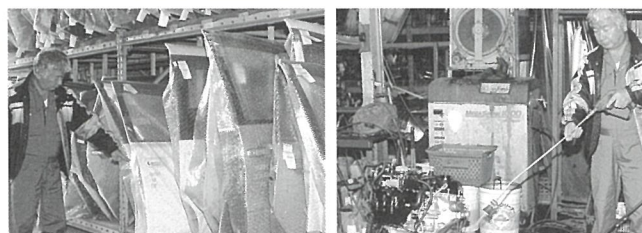
同社では顧客である修理工場、整備工場、一般ユーザーに対して、「自動車リサイクル部品CO<sub>2</sub>削減貢献レポート」「使用済自動車の再資源化によるCO<sub>2</sub>削減貢献レポート」としてCO<sub>2</sub>削減量を数値にして報告書を送り、CO<sub>2</sub>削減の「見える化」に取り組んでいます。このシステムは平成21年5月にスタートし、同社では9月に導入しました。まだスタートしたばかりですが、顧客の反応は上々とのことです。

## リサイクル部品の約200パーツを「見える化」

外装、内装部品、電装部品、エンジン部品、駆動・足回り部品などリサイクル部品は324アイテムありますが、パーツとしては約200余りがCO<sub>2</sub>削減の「見える化」でデータベース化されています。



同社によるとリサイクル部品を使用することで、新品に比べて例えばフロントガラス1枚で96kg、オートマチックトランスミッションで176kg程度のCO<sub>2</sub>排出量を削減できるといいます。このシステムの導入で吉田社長は「環境問題にひとりひとりが



貢献していることを実感でき、おもしろいことだと思います。また、エコユーザーの育成にもつながる大きなチャンスだと思います」と期待を語っていました。

また、このシステムは地球温暖化防止の行動が求められる中で、社会的に高い評価を受け、2009年度グリーン購入大賞の優秀賞を受賞しました。

## 同社の製造・販売するリサイクル部品はリユースパーツ（中古部品）

自動車のリサイクル部品はリビルドパーツ（再生部品）とリユースパーツ（中古部品）の2種類あり、リビルドパーツは使用済自動車から取り外した部品や修理の際に発生した交換部品等をベースに磨耗、劣化した構成部品を新品と交換し、再組立てし、テスターを用いて品質確認を行い商品化された再生部品です。

同社が市場に提供するリユースパーツは使用済自動車から利用できる部品を取り外し、分解等の手を加えず、目視・テスター等による点検を行い、清掃・洗浄・美化を施し商品化された部品です。

販売部品は現在約3000種類あります。エンジン、ミッション、パワステポンプ、ターボチャージャー、コンプレッサー、キャブレターなど機能部品は商品出荷日より6ヵ月間及び走行10000

km以内の品質・保証制度があり、保証規定や補償方法についても明記されています。

### 使用済み自動車の再資源化によるCO<sub>2</sub>削減貢献レポート

私共は自動車リサイクル法に基づき、使用済み自動車を適正に処理し、再利用できる部品はリユース、資源リサイクル（鉄・アルミ・銅等を再資源化）する事により、循環型社会の構築に役立てていきます。また資源を一から精製する場合と比べ、どれ位のCO<sub>2</sub>削減効果があるのかを数値化したレポートをお届け致します。

2009年09月入庫分

| 月日     |      |
|--------|------|
| 09月01日 | ブレイ  |
| 09月01日 | デミオ  |
| 09月01日 | セレナ  |
| 09月02日 | ポルテ  |
| 09月04日 | ガイッツ |

### 自動車リサイクル部品CO<sub>2</sub>削減貢献レポート

2009年09月お買い上げ分

Ver.0910 (kg-CO<sub>2</sub>)

| 月日     | 部品名            | 品種 | 車名  | 型式    | 数量 | CO <sub>2</sub> 削減量 |
|--------|----------------|----|-----|-------|----|---------------------|
| 09月01日 | F左ストラット        | 中古 | パッツ | KGC10 | 1  | 60.0                |
| 09月01日 | F左ドライブシャフト     | 中古 | パッツ | KGC10 | 1  | 12.4                |
| 09月01日 | FパワーステアリングAssy | 中古 | パッツ | KGC10 | 1  | 20.8                |
| 09月01日 | ラジエーターコアサポート   | 中古 | パッツ | KGC10 | 1  | 25.8                |
| 09月01日 | 右フェンダー         | 中古 | パッツ | KGC10 | 1  | 6.1                 |



# 趣味倶楽部

## まず私自身が楽しませてもらい、その先に森の出前や押し花教室、多くの仲間がいます。



(名古屋支部)  
マルサ株式会社  
代表取締役  
浦田 恵美子 さん

2009年も残すところ1週間となった12月23日、大府駅から車で10分ほどのあいち小児保健医療総合センターにあるアチェメックの森で、マルサ株式会社（名古屋市緑区乗鞍3丁目112番地）社長 浦田恵美子さんが森の手入れとクリスマス、お正月飾りを作っていると聞き、お邪魔してみました。

### アチェメックの森で

本日お話を伺う浦田さんは、押し花が趣味と伺いましたが、その他にも自然と共存する活動をなさっていて、こちらのあいち小児保健医療総合センターでは、年に4回のワークショップを開催されているそうですね。

浦田 はい。4月、7月、10月、そして今日で4回になります。地元の親子の皆さんと一緒に森に入って手入れをしたり、季節を感じています。このあいち小児保健医療総合センターには、病院名のAichi Childrens



“環境デーなごや2009”に出展の協会ブースで人気だった押し花コーナー

Health and Medical Centerの頭文字からとったアチェメックという愛称があります。そして、ここにある森をアチェメックの森と呼んで、様々な企画をし、子どもたちに参加してもらっています。

もともと活動を始めたきっかけは何かですか？

浦田 最初は隣地の公園の竹やぶから自宅の庭に侵入する竹を「何とかしたい」と切り始めたことです。竹を切ってみると、このままごみとして捨てるのはもったいないと感じ、何かに生かせないかと雑木林研究会に入会して、森の手入れを教わりました。

庭の手入れからのスタートだったんですね。

浦田 そうですね。15～16年前から始めました。草や花いじりが元々好きだったので、だんだんと仲間が増えてくるとどんどん活動が広がりました。例えば竹の切り方を教えてくれた白石さんは、竹を使ったクラフトを子どもたちに教えてくれますし、療養環境研究会の皆さんに出会って子どもの療養環境に関心を持ちました。

もう、趣味の範疇ではありませんね。

### 楽しませてもらっています

浦田 いいえ、誰かのためにやっているのではなく、私が楽しませてもらっているんです。こうして皆さんと一緒に活動することで、忙しい仕事の間の息抜きにもなりますし、私自身の健康維持になっていると思っています。

先ほど、他のお仲間にもお話を伺いました。浦田さんは、いつもニコニコと話を聞いてくれ受け止めてくれるんですよ。おいしいお弁当も作ってきてくれて、みんなのお母さんの存在だと伺いました。私もこうしてお話させていただいていると、何かホッとします。

浦田 ありがとうございます。でも、本当にこちらこそという思いでいっぱいです。私たちは、それぞれの得意分野を生かして子どもたちにいろいろな体験をしてもらいたい、一緒に楽しみたいという思いだけなんです。春にはたけのこや野菜の天ぷらを、夏には流しそうめん、秋には自分たちで収穫した秋の味覚でなべを作る。季節と共に自然とのふれあいを楽しんでいます。

先ほども少しお話が出ましたが、病院内での活動もなさっていますね。

浦田 はい。入院中の子どもやその家族に、非日常的な体験をしてもらい、健康な体に早く戻れるように祈っています。

非日常的な体験と言うと、例えばどんなことですか？

浦田 例えば、森の中の昆虫のスライドを見てもらったり、森で取れた木の実でクラフト制作をします。昆虫のスライドには生態の解説もつき、入院中の子どもも目の色が変わって興味を持ってくれます。外の世界とのつながりを感じてもらえます。

なかなか本物の森に行く機会は少ないですね。入院中は特に外に出る機会も少なくなりますし。

浦田 そうなんです。ですから「森遊隊」というボランティア仲間で森の出前を行っています。病院の医師や看護師などのスタッフと打ち合わせをして、一人ひとりの子どもに応じた対応も心がけています。

## 仲間との絆が活動源

医療スタッフも含め、多くのお仲間がいらっしゃいますね。

浦田 クラフトの白石さんを始め、アートセラピーの佐藤さん、NPO 法人子ども健康フォーラムの皆さん、雑木林研究会の皆さん、そのほかにも本当に多くの仲間に恵まれています。子どもの健康フォーラムの篠原さんに伺って知ったのですが、世界に目を向けると日本は療養環境が遅れているそうです。カナダなど

では木のぬくもりを生かした療養環境が充実しているそうです。病院の中では、いろいろと制限がありますが、できる限り家庭での環境に近い、自由に散策したり、遊べる環境を提供できるような提案をしていきたいと思っています。

あいち小児保健医療総合センターは、自然の高低差を生かした建物になっているそうですね。それに療養環境を考える点で、子どもたちのために様々な立場の方が智恵を絞ったと伺いました。

浦田 そうなんです。自分たちのやってきた自然との共存、木のぬくもりを感じるという活動が、このような形になり仲間の絆の強さ、喜びを感じます。病院内には、どんぐり君とマロンちゃんというキャラクターが冒険をしている壁面もあり、この病院も森も登場します。そんな壁面を通して、子どもたち自身が冒険をしている気持ちになることができます。こういったキャラクター1つにしても、幼い子どもから思春期を迎える子ども、また家族にも受け入れられるように皆でディスカッションして作られたものです。

お仕事もお忙しい中での活動ですが、とても精力的に取り組まれている印象です。

浦田 いえいえ、自然の中で仲間と汗をかく、これほどの幸せはありません。そこで子どもたちが発揮する本能と個性をこれからも楽しませて



竹や雑木を使ってクリスマスのリースやミニ門松作りを楽しむ子どもやお母さんたち



もらいたいと思っています。

浦田さんのお話を伺っていると、趣味という枠を飛び出し、ご自分のライフワークとして自然との共存を楽しんでいらっしゃるように拝見致しました。誰のためでもなく、一緒に楽しむ…最高の笑顔で語ってくださった浦田さんの今後のご活躍をお祈りしています。



# 事務局だより

## 第4号議案 新規入会時の「誓約書」見直しについて

事務局より配付資料に基づき、誓約書（正会員用・賛助会員用）の見直しについて提案があり、承認された。

※暴力団等反社会的勢力と認められる企業、組織、個人等と、直接又は間接の関係を一切有していないこと等を追記したもの。

### <報告事項>

#### 1. 公益法人制度改革への対応について

事務局より配付資料に基づき、公益法人改革における愛産協の対応について報告された。当協会の公益事業比率は約30%（基準50%以上）であり、公益社団法人への移行は難しく、一般社団法人化への方向付けとなる。

#### 2. 協会・委員会・部会・支部・青年部会の活動状況について

事務局より配付の資料に基づき、協会・委員会・部会・支部・青年部会の活動スケジュール等について報告があった。

#### 3. 今後の主要行事予定

事務局より、平成22年3月末までの協会主要行事の日程等について報告があった。

#### 4. その他

##### （1）廃棄物処理法に定める委託契約書の電子化について

事務局より配布資料に基づき、e-文書法に基づき、廃棄物処理委託契約書の電子化が可能であること並びに収入印紙の添付が不要であることについて説明があった。

※廃棄物処理法上は書面による締結を求めているが、上位法であるe-文書法が優先適用されるもの。

##### （2）建設機械の減価償却年数について（石山理事問題提起）

建設機械の減価償却年数が改正され、従来の5年から17年になったと聞いている一度調べて欲しい。また、当業界においても厳しいので、協会として何らか緩和の働きかけができないか。本件、事務局にて調査し、別途理事会に報告することとした。

## ■新規入会（正会員）

○：積替え保管なし ●：積替え保管あり

は不

| 区分                                                                                                   |  |  | 産業廃棄物 |     |     |    |    |    |       |          |     |     |      |        |      |      |           |     |      |        |       |      | 特別管理産業廃棄物 |          |       |       |          |          |        |          |          |       |        |       |       |      |      |      | 許可期限日<br>産廃<br>(特管) | 他府県<br>許可 |  |          |            |          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|-------|-----|-----|----|----|----|-------|----------|-----|-----|------|--------|------|------|-----------|-----|------|--------|-------|------|-----------|----------|-------|-------|----------|----------|--------|----------|----------|-------|--------|-------|-------|------|------|------|---------------------|-----------|--|----------|------------|----------|
|                                                                                                      |  |  | 1     | 2   | 3   | 4  | 5  | 6  | 7     | 8        | 9   | 10  | 11   | 12     | 13   | 14   | 15        | 16  | 17   | 18     | 19    | 20   | 1         | 2        | 3     | 4     | 5        | 6        | 7      | 8        | 9        | 10    | 11     | 12    | 13    | 14   | 15   | 16   |                     |           |  |          |            |          |
| 会社名（許可番号）<br>代表者（連絡責任者）<br>〒 本社住所、TEL/FAX<br>(処理施設等の設置場所)                                            |  |  | 業の区分  | 許可先 | 燃え殻 | 汚泥 | 廃油 | 廃酸 | 廃アルカリ | 廃プラスチック類 | 紙くず | 木くず | 繊維くず | 動植物性残さ | ゴムくず | 金属くず | ガラス・陶磁器くず | 鉱さい | がれき類 | 動物のふん尿 | 動物の死体 | ダスト類 | 第13号廃棄物   | 動物性不要固形物 | 引火性廃油 | 腐食性廃酸 | 腐食性廃アルカリ | 感染性産業廃棄物 | 特有PCB等 | 特有PCB汚染物 | 特有指定下水汚泥 | 特有鉱さい | 特有廃石綿等 | 特有ダスト | 特有燃え殻 | 特有廃油 | 特有汚泥 | 特有廃酸 | 特有廃アルカリ             | 第13号特有廃棄物 |  |          |            |          |
| (有)サンヨウ<br>(012351号)<br>澤田 満（一）<br>〒441-3126<br>豊橋市富士見町607-1<br>TEL.0532-21-3858<br>FAX.0532-21-3857 |  |  | 収運    | 県   |     |    |    |    |       | ○        | ○   | ○   | ○    |        |      | ○    | ○         |     | ○    |        |       |      |           |          |       |       |          |          |        |          |          |       |        |       |       |      |      |      |                     |           |  | 25.12.19 | 静岡県<br>浜松市 |          |
|                                                                                                      |  |  |       | 名古屋 |     |    |    |    |       |          | ○   | ○   | ○    | ○      |      |      |           | ○   | ○    |        | ○     |      |           |          |       |       |          |          |        |          |          |       |        |       |       |      |      |      |                     |           |  | 26. 1.31 |            |          |
|                                                                                                      |  |  |       | 豊橋  | ○   |    |    |    |       |          | ●   | ●   | ●    | ●      | ○    |      |           | ●   | ●    |        | ●     |      |           |          |       |       |          |          |        |          |          |       |        |       |       |      |      |      |                     |           |  |          |            | 25.12.19 |
|                                                                                                      |  |  |       | 岡崎  |     |    |    |    |       |          | ○   | ○   | ○    | ○      |      |      |           | ○   | ○    |        | ○     |      |           |          |       |       |          |          |        |          |          |       |        |       |       |      |      |      |                     |           |  |          |            | 25.12.19 |
|                                                                                                      |  |  |       | 豊田  |     |    |    |    |       |          |     |     | ○    | ○      | ○    | ○    |           |     |      | ○      | ○     |      | ○         |          |       |       |          |          |        |          |          |       |        |       |       |      |      |      |                     |           |  |          |            |          |

## ■退会（正会員）

- ・京楽観光（株） 名古屋市瑞穂区妙音通 3-3 3（名古屋）
- ・西吉野開発（株） 三重県伊賀市伊賀路 1 1 6 8-2（県外）
- ・森吉通運（株） 一宮市大和町馬引字西出 3 7-1（尾張西）
- ・大成産業（株） 西尾市上町山崎 2 1-1（西三河）
- ・（株）三栄シリカ 岡崎市鉢地町字三山 1 3（西三河）

## （賛助会員）

- ・東海通商（株） 海部郡美和町蜂須賀花木前 2-4（尾張西）

## 会員情報の変更

### （1）社名変更

- 〈西三河〉（株）吉良開発 → 吉良開発（株）
- 〈名古屋〉（有）小谷商事 → （株）小谷商事
- 〈尾張北〉（有）名古屋リサイクル → （有）毎日リサイクル

### （2）代表者変更

- 〈西三河〉（株）吉良開発 勝田 滋市 → 勝田 浩幸
- 〈名古屋〉（株）トキワ工業 土岐 哲也 → 渡辺千鶴子
- 〈名古屋〉新船建設（株） 原 薫 → 原 茂樹
- 〈尾張北〉（株）長田清掃 長田 龍夫 → 阿久津三郎

### （3）所在地の変更

- 〈名古屋〉（株）エコサポート 名古屋市港区善進本町 5 3 0 → 海部郡飛島村木場 1-9 1
- 〈名古屋〉（有）孝和 名古屋市天白区平針 5-8 0 1-4 → 名古屋市天白区平針南 1-2 0 0 4-7



# 編集後記「新年号に寄せて」

■広報編集委員一同



委員長 堀川 政男 (株)アメニティライフ

新年明けましておめでとうございます。  
激動の2009年が終わり、新しい1年が始まりました。  
政権交代して迎える新しい年ですが、デフレ経済、地球  
温暖化など、経済、環境面の双方に於いて問題が山積み  
です。我々産廃業界にも様々な難問が待ち受け、一見苦境のように見え  
ます。しかし、これを好機ととらえ、環境産業創出という時代の声に応える  
べく、「循環あいち」も新しいテーマにチャレンジしようという前向きな  
精神で新年に望みたいと思います。本年もよろしくお願い致します。



副委員長 梶田 弘一 (社)愛知県建設業協会

百獣の王…ライオンならぬ…寅年!!

干支という「寅」は「決断力と才知」が特徴といわれて  
います。プライムローン問題に続いて、ドバイショック  
と、次から次へ先の見えない状況が続きますが、こんな  
時こそ干支にあやかり「頭を使って工夫し、勇気をもって、決断しよ  
う!!」といきたいものです。

一方、環境関連については若干追い風もありそうで、「持続可能な社会  
構築」に役担えるわが業界ではなかろうかとも思います。「寅の威を借  
る狐」にはならぬよう、誠意を持って今年もがんばりましょう!!



委員 黒川 明 福田三商(株)

100年に一度の世界不況と言われる中、各国が環境政  
策に力を入れています。無駄なエネルギーを減らし、環  
境にやさしい社会作りに貢献出来る様「循環あいち」を  
通して皆様と共に勉強させていただきます。



委員 杉山 徳雄 名古屋菱重興産(株)

今年も協会会員の皆様方は勿論の事、「循環あいち」  
を読んでくださるすべての方々に、ご参考となるような  
最新ニュースや有益な情報を提供できるように、頑張っ  
てまいります。



委員 浦田恵美子 マルサ(株)

時の風に素早くなじめるような、さわやかなニュース  
をお届けしたいものです。  
暗いのつらいの飛んでいけーって!



委員 片山憲三郎 (株)金属資源開発商会

一昨年から金融、不動産、製造業とあらゆる分野で景  
気が低迷し、我々業界としても廃棄物の発生が著しく減  
少し、大変な時代に突入しています。されどこれをチャ  
ンスと捉え、努力して乗り越えていきたいと思ひます。



委員 森 竜也 (株)東立テクノクラシー

今年こそ! 暗い話題ではなく、希望のもてる情報を  
この誌面に飾るようにしたいものです。  
本年もよろしくお願い申し上げます。



委員 渡辺 勝広 豊田ケミカルエンジニアリング(株)

厳しい経済情勢は2010年も続くと思われています。  
しかし、愛知県は世界有数の製造業と共に発展してきた土  
地であり、その英知を生かしつつ「循環あいち」も業界発  
展のため少しでも皆様のお役に立てるよう頑張ります。



委員 梅谷 岳志 (有)花丘商事

「循環あいち」の情報を通して、すばらしい一年にする  
ためのお手伝い出来るように頑張りたいと思います。  
本年もどうぞよろしくお願い致します



委員 鬼頭 秀幸 (有)リサイクリング産業

今年も明るいニュース盛り沢山を心がけ、協会員の皆  
様に大いに役立つ広報編集委員会活動を実践いたします  
ので、本年もよろしくお願い申し上げます。



委員 富田 昭雄 (株)富田商店

世界的に環境及び、環境ビジネスに関心が高まる中、  
今年は愛知にてCOP10が開催され、世界の中で日本  
が環境先進国となれるよう、日本の中で愛知が環境先進  
県となれる一助となる「循環あいち」を皆さんと共に、  
編集していきます。本年もよろしくお願いいたします。

## ■支部別会員数

平成22年1月6日現在

| 支 部 名 | 正会員 | 賛助会員 | 合 計 |
|-------|-----|------|-----|
| 名古屋支部 | 201 | 59   | 260 |
| 尾張西支部 | 86  | 7    | 93  |
| 尾張北支部 | 93  | 8    | 101 |
| 尾張南支部 | 51  | 8    | 59  |
| 西三河支部 | 118 | 6    | 124 |
| 東三河支部 | 70  | 9    | 79  |
| 県 外   | 22  | 3    | 25  |
| 合 計   | 641 | 100  | 741 |

# 循環あいち

第74号

平成22年(2010)1月20日発行

編 集 『循環あいち』広報編集委員会

発 行 社団法人 愛知県産業廃棄物協会

〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目10番9号  
(第8フクマルビル5階)

TEL(052)332-0346 FAX(052)322-0136

http://www.aisankyoku.com E-mail:info@aisankyoku.com

発行人 近 藤 成 章

事務局 大 家 健 雄

編集協力・制作 有限会社トピック

## 〈広告掲載会社名〉

近藤産興 株式会社

株式会社 タジリ

株式会社 明輝クリーナー

株式会社 海部清掃

株式会社 ダイセキ

オオブユニティ 株式会社

サトマサ 株式会社



# 私たちは、地域に密着した環境事業を通じて 循環型社会の創造に貢献していきます。



環境に及ぼす影響をすこしでも  
おさえる役割をしています。

## 廃棄物関連事業

### 収集運搬

### 浄化槽

浄化槽の施工・清掃からの維持管理

### 中間処理

廃液の処理や  
廃棄物の焼却からリサイクルまで

- 焼却・破碎
- 中和・脱水
- リサイクル

### 最終処分場

廃棄物の埋立最終処分場

環境との調和を大切にした  
廃棄物埋立処分場です。



日量100tの焼却能力を  
持つ環境に配慮した  
プラントシステムです。

## 工場



## 専門メーカー 技術系商社

水の安全性や建物の補修により  
産業に大きく貢献しています。

## 土木・建築・下水道 関連事業

### 土木・建築関連

- 一般土木工事
- 路面清掃
- 水路・側溝浚渫工事



交通機関の要としての  
地下鉄やトンネルをクリスタル  
ライニング工法により浸入水防  
止を施しています。

クリスタルライニング工法で下水道施設の腐食、劣化、  
浸入水を防ぎ効率的にインフラ価値を維持、向上します。

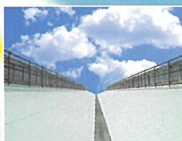
### 下水道関連など

- |                  |                  |                |
|------------------|------------------|----------------|
| ●管更生工事           | ●管渠部分補修工事        | クリスタルライニング工法   |
| ●取付管ライニング工事      | ●TVカメラ調査         | シームレスシステム工法    |
| ●汚水自動バイパスシステム    |                  | エコハイブリットライナー工法 |
| ●防食ライニング工事       | SGICP工法          | 3Sセグメント工法      |
| ●接着補強型止水工法       | FRP光硬化取付管ライニング工法 | FRP内面補修工法      |
| ●水中橋脚ライニング工事     | RPS工法            |                |
| ●トンネルおよび地下鉄の止水工事 | XVテレビカメラシステム     |                |

### 工場改善関連

- スレート屋根の防水・再生

### ラース工法



防水性に優れたラース  
工法によりスレート屋根  
の補修などで工場全  
体を再生します。

## 公共施設 交通機関官庁



## 地域住民



ビルの飲料水を供給する受水槽・高架水槽は、  
生活の基盤となる水の安全性を守るため、  
定期的な清掃を行っています。

ビルの飲料水を安全にするために。

## ビルメンテナンス 関連事業

- 貯水槽清掃
- グリストラップの清掃と処理
- 給排水管清掃

# UNITY

オオブ ユニティ株式会社

〒474-0001 愛知県大府市北崎町駒場88番地

TEL.(0562)47-0535 FAX.(0562)47-0531

- 一般廃棄物処理事業
- 都市環境清掃整備
- 下水道調査・修理
- 産業廃棄物処理事業
- 処理場の管理
- ビル管理清掃
- 工場環境清掃整備





企業理念

“安全で安心”

豊かな社会と自然環境の創造は  
私たちの使命です

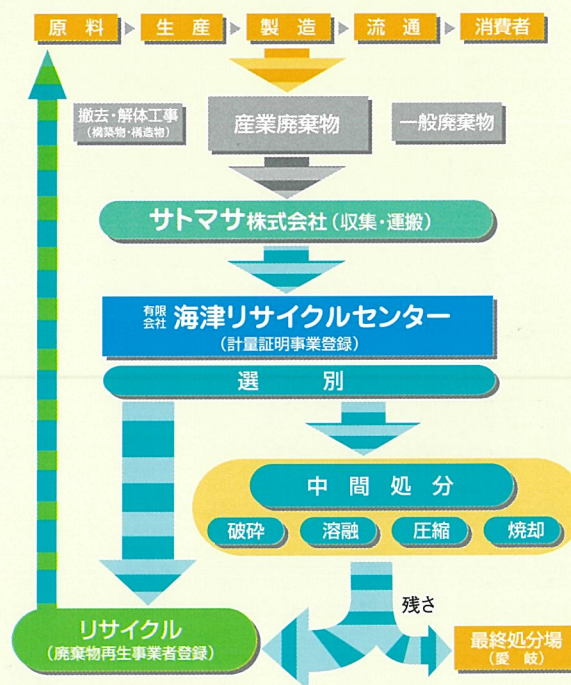


# サトマサ 株式会社

「廃棄物は貴重な資源」でありその適正な処理は、生活環境および自然環境(環境アセスメント)の保全を図る上で極めて重要なことであります。創業精神である「再資源・再利用・再使用・転用化」を目指して、一般廃棄物、産業廃棄物の収集・運搬・処理・処分のトータルシステムの確立に取り組んでおります。

環境保全と循環型社会構築を使命とする企業として、環境に関するグローバルスタンダードである『ISO14001』認証を取得いたしました。

私どもは「自らの事業活動で発生する環境負荷の低減」という課題にも、積極的に取り組んでおります。



## 〈加盟団体〉サトマサグループ

(社) 愛知県産業廃棄物協会  
(社) 岐阜県産業環境保全協会  
(社) 三重県産業廃棄物協会  
岐阜県産業廃棄物処理協同組合  
岐阜県建設廃材処理協同組合  
岐阜県清掃事業協同組合  
愛知県地域環境創造協会

**サトマサ 株式会社**

〒496-0045 愛知県津島市東柳原町1-26  
Tel.0567-28-3103 Fax.0567-26-4843

有限会社 **海津リサイクルセンター**

〒503-0643 岐阜県海津市海津町札野434  
Tel.0584-53-3103 Fax.0584-53-3104

<http://www.satomasa.co.jp>

E-mail : [info@satomasa.co.jp](mailto:info@satomasa.co.jp)